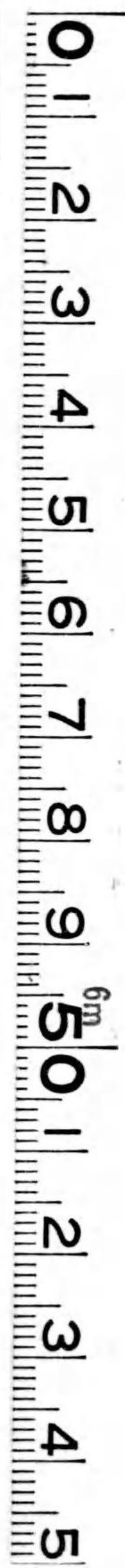




特 104

899



始





特104  
899

### 序

限りある智識を以つて無限大の宇宙に對し、推理憶斷を加へんとするは今日の所謂なるものなり、而も形而下の物質的方面に於る研究も尙且つ完成の域に達する能はず、況んや形而上の心靈的方面と靈妙不可思議なる宇宙の神秘に於てをや。

されど幽幻靈妙なる宇宙の神秘も機に觸れ事に應じ、其一端を發露することあり、物を隔て、物を視ること能はざるは肉眼の常なり、然れども透視念寫なることあり、近くは又靈感寫眞なるもの、奇蹟さへ喧傳せられつゝあるにあらずや。

夫れ命名は天意なり決して偶然なりと云ふを許さず、故

正  
七  
て  
20  
内交



て吾人は命名に依りて各人の吉凶禍福を限定せらるゝものなり、宇宙の神秘、人事の靈活に對し誰か姓名と運命は何等の關係なしと斷言し得るものぞ。

由來物あれば必らず名あり名は實の賓にして其體を顯はすが如く、姓名に依りて各人の運格を賦與せらる、故に天與の姓名に依りて天意のある所を稽がへ、天人感應の機微に接せんとする之れ姓名判斷術なりと。

大正三年七月上旬

香村 識

緒言

今般姓名判斷術と云ふ一小冊を出版せし所以を左に説明せんに余の易占を學び初めたるは去る慶應元年にして夫より姓名判斷術を修め次で天源術、幹支九星、化氣學等、東都の諸大家に就て習ひ、略ぼ其濫義を窮むるを得たり、後ち右諸術を取捨折衷して、先人未發の良占術を得之を實地に應用を試みたりしに的中せずと云ふこと無し、其成績としては既に去三十六年十二月の弘前新聞に發表掲載せり、其當時弘前新聞社より日露事務局終結如何を問れたる故開戦となるのみならず、全勝は無論也如何となれば恐れ多くも、天皇陛下に於かせられては偉大の天運則ち軍旗の日章光線の十六行運は至尊至貴所謂天子の天子たる御資格にして六治を威服する事風の草に加ふるが如し、故に戦へば必ず勝攻れば必ず取る、然るに露國皇帝は劍難災難の凶質を有する運畫なるに本年は穴を掘て陥落するの運軌道に當らせ居るのみならず、夫に「アレキシエフ」總督も凶運にして當年二月は不測の襲撃を受け、狼狽す、三月は兵を率ゐて進軍、るも四月に至れば内閣側より拒まれ退く事有り、到底安全を保たざるべしと斷定せり



(四)  
 次に「カローフ」將軍は温顔にして全身皆智謀なるべき偉大の人物なるも凶運畫に加へて  
 劍難短命の兆候有るを以て沈没の厄に罹りたるは亦偶然に非ず次に當第八師團長立見尙文  
 公は本年は兎角旺盛なる運軌道に係るを以て發途期なし若動員有るも臨戦は無かるべしと  
 鑑せるに今日より之を見れば盡く的中せり故に此度小冊版權を得て世に公けにせしなり  
 本書中最も解し得難き中にも天源術幹支術等は素より秘密口傳に包藏し置かるゝ事多くし  
 て未だ其確乎書無きものゝ如く偶佐藤觀元氏の著書有るも亦同じ故に凡ての事實其ものは  
 記載し難し其謂はれ恰も砂糖の甘味は舌の如何にして判るかの質問と同じ類にして何れ口  
 傳に譲り銘々研究の功を積みば自然に了解すべし  
 然るに今回北海道に漫遊せしに札幌に於て非常なる歡迎を受け大なる好評を博し茲に本書  
 を再版するの機運に際會せり

大正三年七月

著者 謙

姓名判断術

目次

(五)

第一	姓名と運命	一頁
第二	運勢の吉凶鑑定法	二
第三	五氣五行の性情	五
第四	天地配置の吉凶善悪	一五
第五	乾坤組合の吉凶善悪	二二
第六	五氣配合附記の方法	二八
第七	姓名文字の運畫の區別	二九
第八	異例	六一
第九	一生中の厄年	六一



(六)

第十	循環數理に係る年度の吉凶	六五
第十一	男女生兒の有無説明	六八
第十二	婦人妊娠の月日に期定を示す	六九
第十三	幹支術及九星化氣學人事豫報占	七一
第十四	九星化氣循環及吉凶表	七六
第十五	幹支學九星化氣學應用法	七八
第十六	姓名文字の讀下しの説明	八〇
第十七	参考	自九〇至二〇

目次終

姓名判断術

鎌田晴山著

第一 姓名と運命

姓名判断と云ふことは近來非常に流行し又其著書も少なくないが此姓名に依りて運勢を判断するの法は決して今日に始まつた事にあらず即ち物あれば必ず名あり人生れて姓名のないものは無い其姓名はつまり天地自然の理法に基づいて構成せらるゝものなれば姓名に依りて各人の運格が限定せられ生死存亡吉凶禍福とも此の大自然の理法に支配せられざるなし

姓は祖先又は父の實体で名は各人に特定せられたる人身以外の實体を以て其命名に際しては慎重嚴密に詮議し其讀下しにも大なる注意



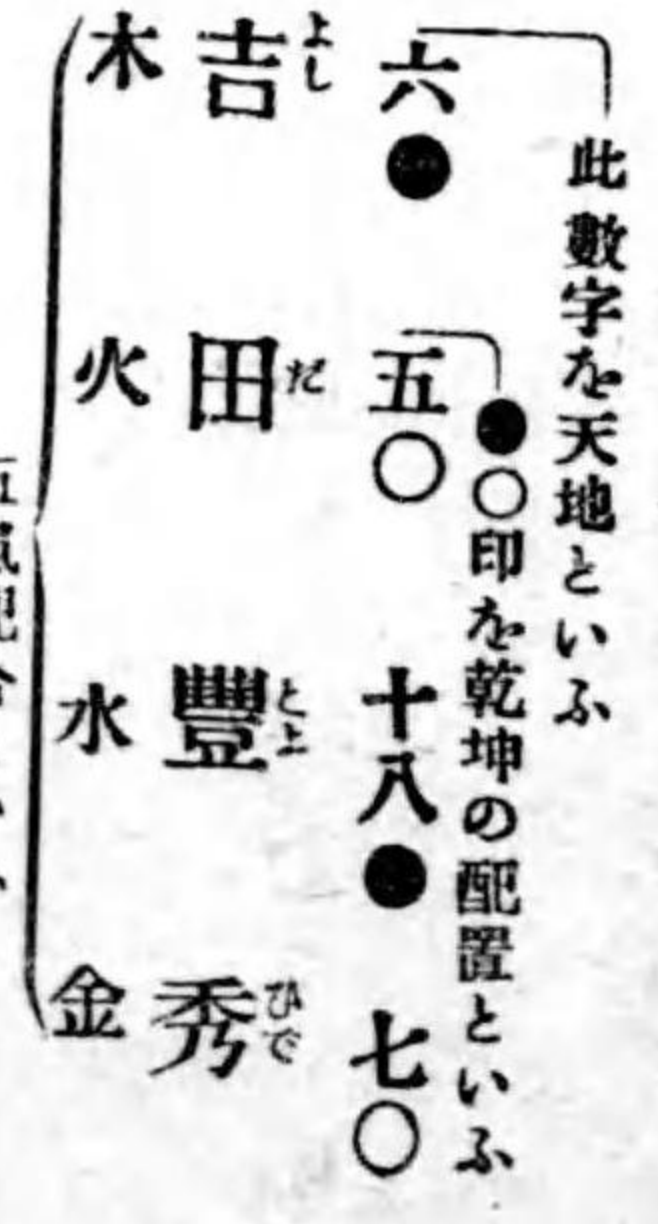
を拂はざるべからず故に讀下しの意味通せず若しくは字義の解せざる如きは之れ有名無實の空体なるを以て其人は必ずや短命にあらざれば白痴癡疾の徒となるべし以下項を逐ふて詳説すべし

第二 運勢の吉凶鑑定法

第一着としては其人の姓名を明記し次ぎに字畫即ち天地及乾坤を其右傍に附記漸次姓の畫數と名の畫數と區別し置て而して姓と名と綜合して畫數を定め次に文字の性質を左傍に附記し其次に年齢幾歳と右に記する本命星は何たるを附記し最後に姓名文字を解剖して善惡を定むるものなり其一例左の如し

一、二十歳以下にして改名すれば五年三十歳以上に至りて改名すれば十ヶ年十歳以下は二ヶ年經過すれば全部善運に變遷する者と知るべし  
 姓名運畫及本命星の循環に依りて吉凶を判ずる例

姓十一畫  
 名二十五畫  
 姓名合三十六畫



九星 本命 九紫なり  
 當年戊三十二歳

譬へは茲に左の人名有りとする

一本姓名の運畫及生年を以て一生中の概運及本年則ち明治三十八年の運命其他一月中次には同月十五日の吉凶は左の如し  
 右姓の十一畫は吉にして名の二十五畫も亦吉なり此の運勢は幼年壯年中の活動する處なり而して二十五畫は雷暑さに逢うて震ふの象なり故に其威權勢力充分なる幸福の時機に際して宇宙を跋扈する如く立身出世高逸の位置に立つべき英敏智達の運命なれ共一利一害を有し不和或



は平和を保ち得ずして家族分離するか又は如何に望みを達せんと欲するも他害の係る處と成りて兎角損害に逢ふ運命なり姓名合せて三十六畫は甚だ凶惡にして此運勢は中年後活動を起すも且つ一家一身を統括する大關係を有するものにして三十六畫は並び行き相背の象にして物の散失するの意ありて怡も風の變動する如く其人一生中の大凶運ありて大艱難大辛苦逆れ難く不運不幸の責めに逢ひ貧苦困難に耐へず或は病身なるか短命なるべし

一 姓名合せて三十六畫此の運勢の人は一生中の大凶にして不運不幸に逢ひ貧苦に耐へず或は短命又は劍難の恐有り

一 天地の配置は逆に組みたるを以て内家族と不和合なり然れども財寶に縁有るべし

一 乾坤の配置は乾坤と即ち二乾二坤と組たるは順に組みて性質温良に

して長壽富貴の善兆なりとす

一 五氣配合は錯雜にして同文字無き故心一定し難く轉々して動き易く熱心なき人物なり

一 本年は乾の厄に相當するを以て苦慮損失災難を享くるものとす

一 本年の運勢は發揚的に係るを以て見れば位地を變ずるか他に望みを起すか遠行する事あらん

一 三十八年一月十五日八白星なるを以て九紫の人は思慮的にして疑惑百出し凡て決し難き時機を失して損害等を蒙り或は病氣起りて重くならん全體此の星に當る人は幾ら考へても明案なく詰り損と成るのみなれば快々として樂まず夫れに病氣起りて如何とも致し難かるべし

### 第三 五氣五行の性情



- 一金の性は剛氣にして大量利慾薄く沈著にして愛心厚く威權高尚なる態度なり
- 一水の性は柔和にして細心に忍耐強く辯舌爽やかに世辭も上手に多才なり
- 一火の性は活潑の中に温良を含み勇敢なれども愛嬌ある故彼我親交厚く幸福を保つべきものなり
- 一木の性は有才活潑なるも騒がしく疎忽にして勇無く氣渡り鋭く世話好きなるべし
- 前記に示したるは重に各人の性質氣質を鑑定するものにして能不能を明かにするものなり
- 一土の性は短氣にして意地悪く沈黙して言語寡なきも智識逞しく人を謀る癖有り然れども氣渡り鈍かるべし

- 右之五性譬へば木火土金水と姓名五字に附記有るは錯雜の組方にして其は如何にも心情動き易く一定し難く事物に熱心薄く成功寡なり若し姓名五字に火火水水水といふ如く同文字多き時は随つて豪毅にして精神確實大智謀者と成り大才子ともなり且熱心となりて萬事善悪に拘らず遣り遂げ得べしと知るべし同文字加ふる毎に彌勢力を強むるものなり
- 一金多く或は土多くして運格數凶悪なれば其人神經病を發して狂亂となるべし
- 一名に土有れば妻子の内何れかに運薄し土多ければ一生中妻定らず同文字多きとは譬へば姓名五字にして火金金木金といふ如き組合せにして金字三字なるの類を云ふものなり
- 一金土の配合有る人は持病として肺或は胃弱なり



一金木の配合有る人は痔或は眩暈有るべし  
 一木水の配合は疝癰にして女は子宮病なるべし  
 姓名に附與したる五氣配合に依り性質氣質の善良完備なる配合の一例を擧ぐれば左の如し

- |      |      |      |      |
|------|------|------|------|
| 火火金金 | 無上大吉 | 水水金金 | 才子大吉 |
| 土土火火 | 剛毅大吉 | 木木水水 | 智謀大吉 |
| 土土金金 | 智謀大吉 | 土土木木 | 智謀大吉 |
| 火火木木 | 智謀大吉 | 火火土土 | 智謀大吉 |

斯の如く五氣配合は大志大望を有し大事大業を貫徹する果斷才幹を備へ必らず大名を博し大功を千載に傳ふるものあり其人文學の有無に依り大高名の人物となるか大金滿家の人物となるの區別あるのみ此の配合の五氣は轉倒するも二字性の文字中に入るも性質氣質に異動なきものとす

姓名五氣配合は少しく不和的にして富貴幸福の利害を有するもの大事大業を成し功名を奏する性質の一例を擧ぐれば左の如し

- |      |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|------|
| 金金金火 | 豪毅大吉 | 火火火金 | 豪毅大吉 | 金金金木 | 才子大吉 |
| 火火火水 | 豪才大吉 | 金金金木 | 剛毅大吉 | 火火火木 | 剛毅大吉 |
| 金金金木 | 剛毅大吉 | 火火火土 | 同 じ  | 水水水金 | 才子大吉 |
| 土土土金 | 剛直大吉 | 水水水火 | 才子大吉 | 土土土火 | 剛毅大吉 |
| 水水水木 | 智謀大吉 | 土土土水 | 不和吉  | 水水水土 | 不和吉  |
| 土土土木 | 智謀吉  | 木木木金 | 不和大吉 | 木木木火 | 剛毅大吉 |
| 木木木水 | 智謀大吉 | 木木木土 | 剛直吉  | 土土土水 | 不和大吉 |

斯の如き配合は多少不幸愁傷困難苦辛に逢ふも必ず大業を成し功名を奏する大志大望有り中年後晩年は芳名を千載に傳へざれば金滿家又は工夫的人物となるべし此配合にて一字性の文字増減あるも又下段に加るも中央に加るも凡て大差なく同様の意味なりと知るべし又下段の



性の字の上に二字性を重て入るも下に二字性を重て入るも一層其性質を強むるのみにて敢て運勢に異動なきものとす  
 姓名五氣配合は同性質の文字のみ組合ふ時は遭難質の配合にして大難不幸を免がれざるものなり一例を擧ぐれば左の如し

- 金金金金 豪氣大吉
- 火火火火 智達大吉
- 水水水水 智達大吉
- 土土土土 智謀大吉
- 木木木木 豪氣大吉

斯の如きは智勇の徳を有するも皆一生の大艱難大辛苦を示すものにして死せんと思ふ厄に三回逢ふべし又他人と不和合の意もあるべし其他の意味は前項の例に同じ此配合中に他性の字一字加れば一字丈の艱難を減じ三字加ふれば大吉となるべし又其加るにも中に入るも上に入るも下に入るも續きて二字入るも同様の意味なりと知るべし假令文字讀下し合運數天地乾坤の配置組合は極めて上運にして善良なるも艱難

辛苦は減せず反て合運數凶悪なる時は悪運或は氣運等の恐あるべし  
 姓名五氣配合に依り剛毅忍耐にして萬事を切り抜け得る智謀才略を有する組合せの一例を擧ぐれば左の如し

- |       |      |       |     |       |     |
|-------|------|-------|-----|-------|-----|
| 金火金火火 | 無上大吉 | 火金火金金 | 同上  | 金水金水水 | 同上  |
| 火水火水水 | 同上   | 金木金木木 | 豪毅吉 | 火木火木木 | 同上  |
| 金土金土土 | 智達吉  | 火土火土土 | 豪毅吉 | 水水水水水 | 同上  |
| 木火木火火 | 豪毅吉  | 水金水金金 | 無上吉 | 木金木金金 | 豪毅吉 |
| 水木水木木 | 智達吉  | 木水木水水 | 智達吉 | 水土水土土 | 温和吉 |
| 木土土土土 | 智達吉  | 土金土金金 | 豪毅吉 | 土木土木木 | 豪毅吉 |

斯の如き五氣配合は吉祥の性質にして一見高尚なる大才子にして尙ほ姓名の合運數善良なる時は貴顯縉紳ともなり能く人をして威服せしむるものなり此五氣配合は世人に多く見ざる處なり所謂泰山の象己れ自ら高しとせざるも人自ら高しとするが如き意なり若し此配合に一字増



減あるも同様の意味なりと知るべし

左に掲ぐる五氣配合も吉祥善美の組合なりとす

火水水火	大吉祥	金水水金	大吉祥	火金金火	大吉祥
金木木金	同	火土土火	同	金火木金	同
火木木火	同	金火火金	同	水火火水	同
土火火土	同	水金水金	同	土金金土	同
水土土水	同	土木木土	同	水木木水	同
土水水土	同	木火火木	同	木金金木	同

本例は前諸項と同様の意味なるも一層性質氣質を強くして且つ前後完全に結び一生の始終を完ふすると云ふ意なり此中間に同性の文字一字加ふるも愈々善良にして決して不可なきものなり

左に掲ぐる五氣配合は物事不良の災難を享けざるも極めて善良なる組合と云ふべからず

木火金火	吉兆	金木金火	吉兆	木火水火	吉兆
金木水火	同	木火木火	同	金木土火	同
木火土火	同	金木火火	同	水金火火	同
火水金火	同	水金水火	同	火水火火	同
水金木火	同	火水木火	同	水金土火	同
火水土火	同	土金土火	同	土金水火	同

本例は前項の例と同様の性質を有するも或は事に處して少しく熱心を缺くか亦は物に對して少しく恐るゝの意あり然し普通の性質よりは一段上等のものとするべし

若し本例の配合に同性質の文字一二字増加したる場合は極めて善良にして大事大業を貫徹すべき大膽力と大勇氣を有し物事成功すべき脳力と精力を有するものなり

左に掲ぐる五氣配合は凶悪の組合にして物事意の如くならず困難辛苦



多きものなりとす

火水木金土	凶	水木金土火	凶	木金土火水	凶
金土火水木	凶	土水水木金	凶		

本例の配合は甚た宜しからず何となれば五氣錯雜にして志想一定せず  
 物事皆其方向を變じ易く始終を全ふするの精神に乏し而し西洋人は日  
 本の假名に譯するを以て半は吉なりとす此配合にて一二字増減あるも  
 同様なりと知るべし

前數項に示したる五氣配合の組合を參酌して吉凶の理を考ふべし

五氣配合のみ善良優美にして文字讀下し又は合運數凶惡なる時は惡事  
 悪行を働き不義不良の人物となるべし

若し五氣配合善良にして合運數及文字讀下しの善良完備なるものは偉  
 大の功業を果すべき大高名の人傑とならざれば大金滿家となるべし

五氣の配合は其姓名に配列する順序に依り各人の運命を支配すべき尤  
 も大切なるものなり

第四 天地配置の吉凶善惡

天地配置と稱するは姓名字の字畫を定めたる姓名全體の每數を總稱し  
 たるものなり

姓名文字の字畫を撰擇するには姓の頭字の畫數より名の頭字の畫より  
 下の數は一畫か二畫を減するを以て善良なりとす又名の頭字の畫數よ  
 り次の文字の畫數は次第に減するを以て天地配置の善良完備なるもの  
 なりとす

前項天地配置の全美せるとは譬へば姓名の頭字は八畫の文字なれば次  
 の文字の畫數は六畫次は五畫と二畫一畫と組むを要す（即ち八六五二  
 一となり）此配置を得ざる時は自己の身分は賤しくして或は物事實行



に困難なる凶悪を生ずる關係を有するものなり

天地配置の凶悪は人身に如何なる利害を興ふるやと云へば已れ悪しと思はざること他人の厭ふべき嫌ふべきこととなり又他人の忌むべき行為を爲し或は他人の意氣に觸るゝことを成し一見他人に不満を懷かしむる所爲所行を爲し或は人に損失散財を懸け或は他人の好意を破り自然他人の信用を失ふ境遇に接して世人に容れられざる人物となるべきものなり

天地配置の善良ならざるものは貧賤なる家に生れ父子兄弟の和親を缺き又他人の信用に乏しく且つ他人と不和合なるものなり又た物事實行するに當り困難を生じ容易の事業も困難となり甚たしきは自力の才能を無視せられて自身を左右すること能はざるものなり

文字の字畫は十位を零と定め十位以下の端數を以て天地配置を定むる

ものなり即ち十五、二十三、三十六、十、と組みたる字畫の配置は單に五三六と十位を棄却して端數のみを以て天地配置の利害を判斷するものなり

天地配置善良なる一例を擧ぐれば左の如し

六二二二	八五二二	九六三二	四三三三	八六三二
九八七六	四九二一	二二二二	三三三三	五五四三
六六五四	八八七八	九九六七	一一一一	二二二二
一四一一	一一一一	一四一十	四四三二	四五二一

前記の如き組合は天地配置の甚だ全善たる幸福の配合なるを以て命名には注意して可なり幸福の位置に生れ富裕榮華を極むるものなり

五五九九	一九一九	七九九九	三九九三	五三七九
五七三七	五五三九	七九七九		



又之れに十を加へて十七、十九、十七、十九と組むも十の数は零位なるを以て天地配置を見定むる時は空位に算するものにして端数を以て配置を定むるものなりと知るべし

一七二三 三三四三 三五六五 五六五八  
 三五九八 七八六九 三三一五 一三五七  
 四五七八九 四五一六九 五六三七九 一四二二三

斯の如き配置は如何に上運の吉數にありと雖も其凶禍を免かるゝ能はず特に婦女子の姓名は他人の厭ふべき病根又は醜婦となるを以て注意すべきものなり

天地配置は六に四を組み四に二を組せ二に二を組せしむる類は甚た凶惡にして天然質の病毒を有するものなり其一例左の如し

八四二二四	四四二二二	六二六二二	二八四三三
八八四四二	八二四四四	四四二二二	八十二二八

八三三二	八六四四	八六四二	八六六四
二二二二二	六四二二二	六六六二	六六四四
八八二二	八六八六	八四八二	二六二二
二六四二	八四四二	六四四二	六六四四
四二四二	六二六二	八四八四	一八六六
一六四四	二四二二	一四四四	六六二二

斯の如き配置は一字増加ありと雖も凶禍を免かる能はず又運數及文字讀下しと相尅を生ずる時は大凶となり若し他の五行善美するも一種の病根を免かるゝ能はざるものなり

前數項に記載したる凶惡の配置に係る人物は唯に病氣災難に罹るのみならず物事施行の能力を缺き何事にも従事すべき意志を有せず事皆恐ろしく少年と雖も成し能はざる批難すべき缺點を有するものなり

天地配置善良なる姓名は富貴幸福にして其人に自由の權利を有せしめ



如何なる大事大業と雖も少しも恐るゝ處なく志望目的を貫徹せしめて物事成功を奏せしむるは天理の妙意にして少しも疑ふ處に非ざるものなり

姓名の天地配置凶悪なる人物酒癖又は怠弱或は放蕩又は不用の争論を事とす人の不和合を好むの悪癖あるものなり然し改名又は養子等に係りたる人物は此の限りにあらず

婦女子の姓名にして天地配置宜しからざる時は不和或は結婚に縁遠くして困難辛苦を來せるものなりとす命名の際は注意せざれば悪女醜婦を生ずるものなりとす

天地配置は凶悪にして不和不信用なるも文字讀下しと姓名の運數上運の吉數を得ば敢て不祥の姓名と言ふべからず何となれば壯年中は世運の逆境に立ちて始終失敗攻撃批難を受くるも其凶悪の結果として却て

逆に生死毀譽褒貶を顧みず積極的か消極的精神を有し大凶變じて大幸福を享け意外の大利を得るか大高名を博することあるものなり  
前項の場合に於て若し運數凶悪なるか文字の讀下し凶悪なる場合は氣違又狂氣様の人物となるべし又乾坤組合の凶悪なる時は其凶悪の種類に依り種々の禍害に逢ふべきものなりとす注意して可なり

一單に天地配置のみ善良なる姓名は富貴幸福の家に生れ物事不足なく和親信用を保全するものなり若し配置善良なるも名に一坤もなき時は貧困となりまた名に一乾もなき時は氣樂に失し一生無爲に終るものなりと知るべし

一天地配置は其人其事を成し得るや否や又幸福に位し成長したるか或は不和困難にして物事實行するに自由を得るや又は容易に他人の信用を得るや否を鑑定するものにして其他の善惡に關係せざるものなり



り最も其利害の係るべき年度は中年前後に至る迄困難辛苦を來せるものなり然れども運數及文字讀下し等凶悪なる時は晩年或は終年まで其禍害を免がるゝこと能はざるものなれば注意して可なり

第五 乾坤組合の吉凶善悪

一 姓名の字毎に●○を附したるものを乾坤組合といふ即ち●印は乾にして○印は坤なり乾は文字の字畫偶數を以て定む坤は文字の字畫奇數を以て定めたるものなり

一 乾坤組合は姓名中一坤もなく乾計りは大凶なり又坤計りの姓名も始め中頃は吉にして盛んなれども終り大凶にして晩年宜しからず他人の刺撃攻撃を享け批難を免かれざるものなり

一 乾坤組合は姓名共に乾計りにして其名の運數凶悪に且つ綜合姓名の運數凶悪なる時は三歳未滿にして短命するか又は一生の凶悪にして

大辛苦大艱難の人となり或は刑罰の責を免かれざるものなり何れにしても壯年前後に於て死亡するものなりとす

一 合姓名の運數善良なるも其名の運數凶悪にして且つ名の乾計りなるときは貧賤なる家に生れたるものも幼年壯年中年前後は非常の大困難大辛苦を極め晩年は一回の富貴幸福を享くるものなりとす

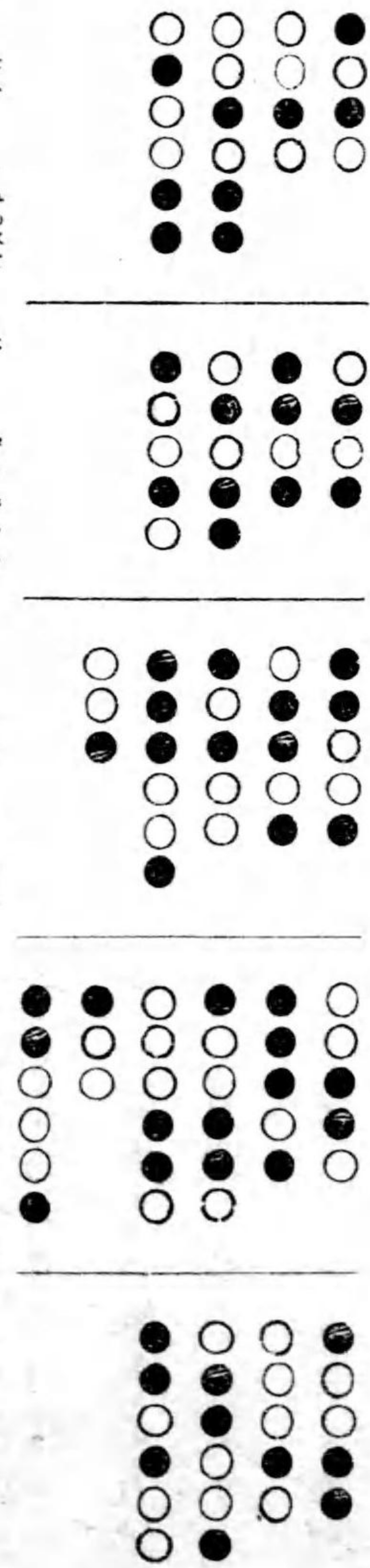
一 姓名共に運數善良なるも名は乾計りにして一坤もなき姓名の人は貧家に生るゝか或は富家に生るゝも其父母は大困難の場合に係り生れたるものにして壯年中年は多くの艱難辛苦あるものなり而して晩年は富貴幸福の人物となるは疑ひなきものなり

一 乾坤組合凶悪なる人物は循環數理の厄に當りて靚面に大艱難大辛苦を生じ病氣、災難、損失、苦情、短命其他意外の厄に罹り絶對絶命の困窮を來すは疑ひなきものなり



一 乾坤組合は善良にして他の天理五行總て凶悪なる時は身體健全なるも不和困難災難總ての災患を免かるゝ能はざるものとなるか或は一  
生無頼の人物となるべきものなり

乾坤組合の吉凶善惡の例左の如し

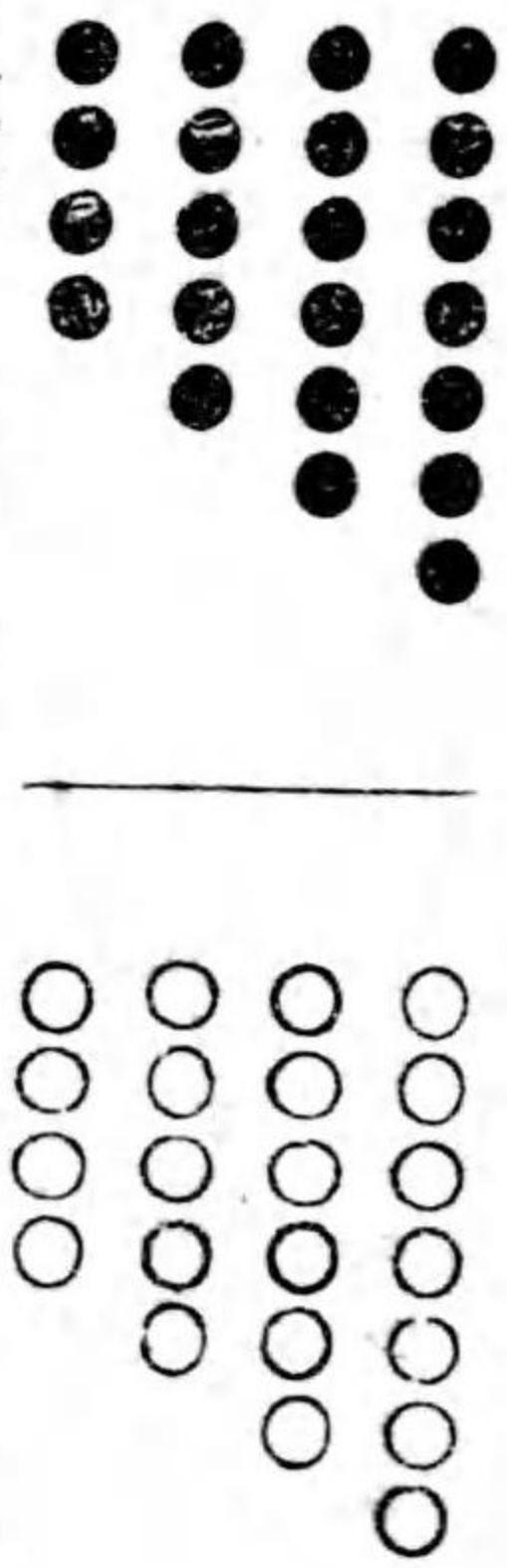


斯の如き組合は他五行善良なる時は長壽に富貴幸福功名の人物となる  
は疑ひなきものなり

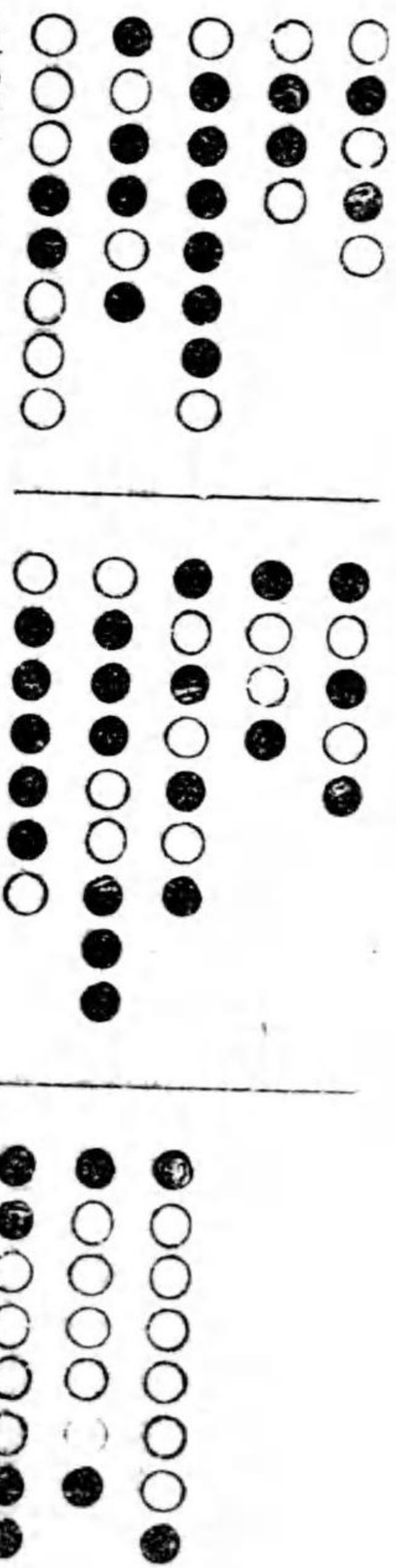


右の組み方は多寡に拘らず純然たる善良にして其人温良正潔言行端肅

長壽富貴の吉祥なりとす



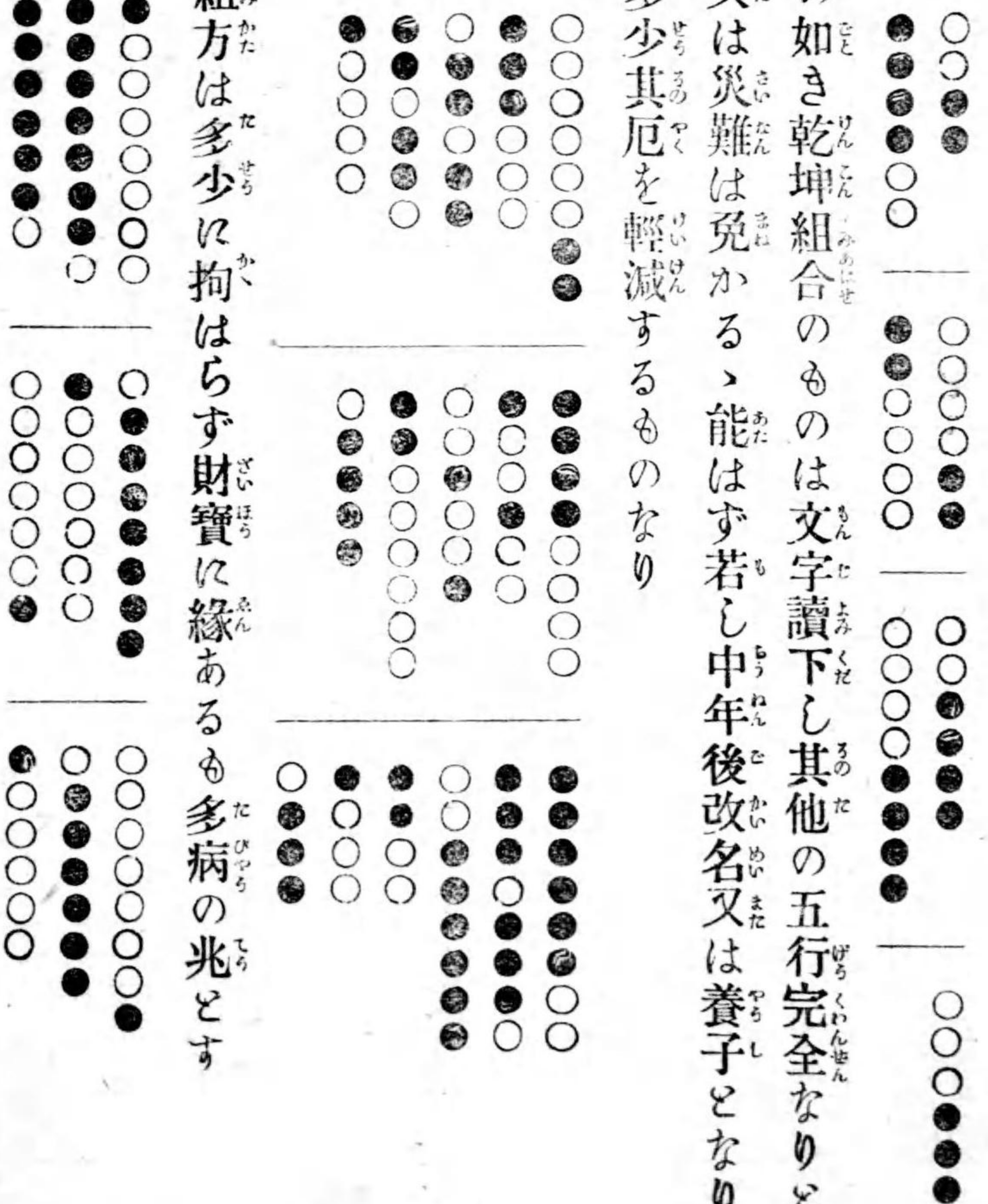
此の組合は總黑象總白象といふ皆大凶にして或は短命大艱難無運とす  
るを以て災禍に泣き又は配偶を失なひ又は刑辟の罪人となるべき運命  
なり



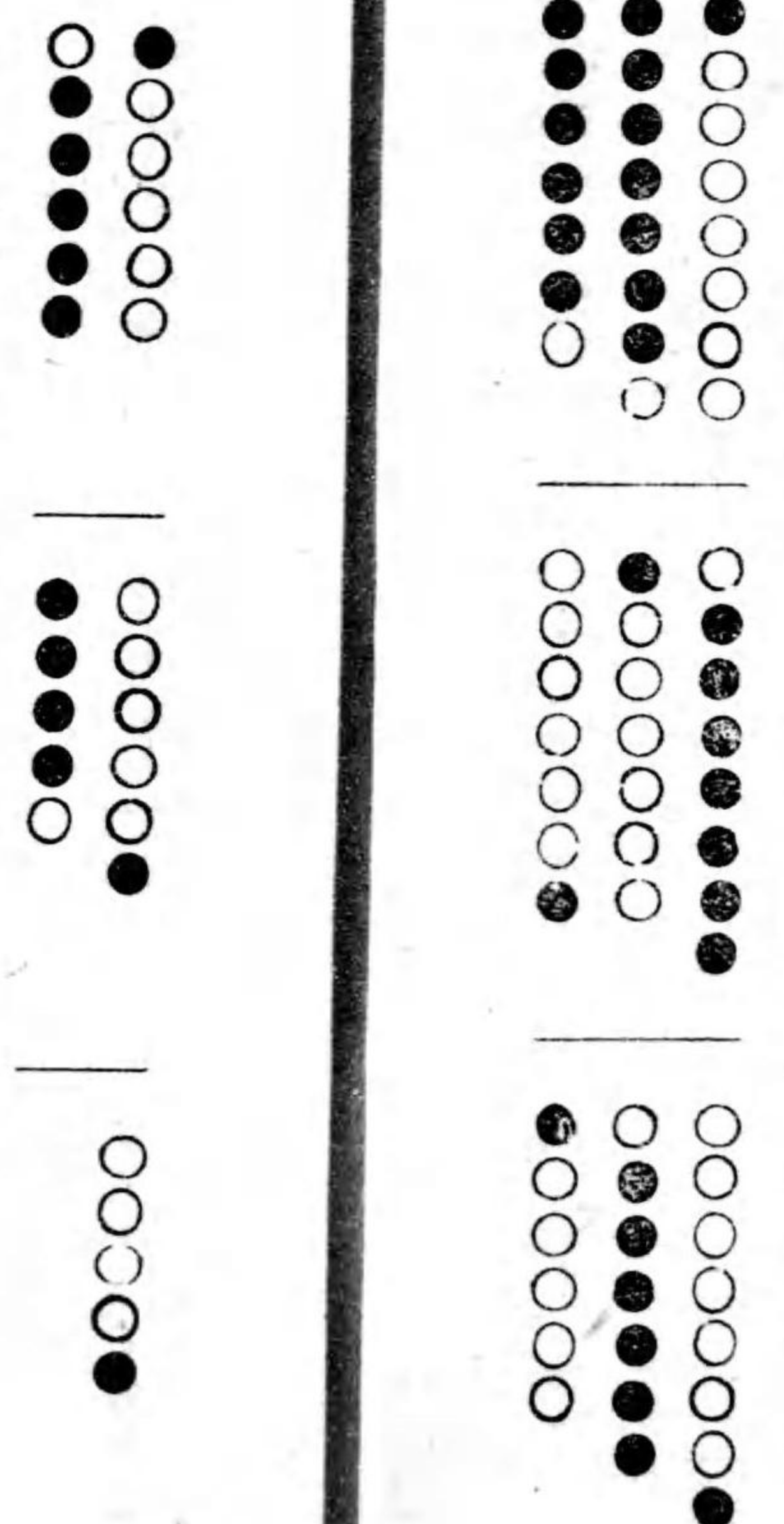
此の組合は乾坤挾みと云うて多病或は短命又は不幸災害を享くべきもの  
なり



斯の如き乾坤組合のものは文字讀下し其他の五行完全なりとするも短命又は災難は免かるゝ能はず若し中年後改名又は養子となりたるものは多少其厄を軽減するものなり



此組方は多少に拘はらず財寶に縁あるも多病の兆とす



斯の如き組合は縦へ文字の讀下し及其他の五行善良なりと雖も一生中一回は不時の病難或は其凶禍を享くるものとす

右の外數多きも逸々列記すれば初心の人却て迷ひを取るの恐れあるべし故に省略す多きも少なきも唯右の組方を考ふれば皆な同吉凶なり女子は凡て片假名を用ゆるも又同とす又改名或は養子に係りたる姓名は短命と雖もまた損難災厄も凡て十ヶ年の増命を保つものとする凡て善悪共數の増加すれば吉凶も増加となり減少すれば又吉凶も薄弱なるものとす

一姓名に附記したる總稱を天理五行と云ふ又姓名に附記したる各項の名稱即ち姓名字畫の合數を連數といふ姓名文字の傍に附記したる字



畫の數を總稱して天地配置と云ふ

第六 五氣配合附記の方法

姓名文字の音則ち「長の假名ナヤウ」は頭の假名「ナ」なるを以て火性の火を附記すべし「ロウ」の頭字音火を記すべし餘は右に倣うて記するものと知るべし其性を區別する左の如し

木性 カキクケコ

金性 サシスセソ

火性

タチツテト  
ナニヌ子ノ  
ラリルレロ

土性

アイウエオ  
ヤイユエヨ  
ワ井ウエナ  
ン

水性

ハセフヘホ  
マミムメモ

右五十音の應用は「ナヤウ」のナ或はヌ或はルなるも皆火性なる故火

を附記するの類なり

一 運畫數及諸配合共善良なる人物は如何なる艱難辛苦不運不幸に際會するも決して恐るゝに足らず他日其不遇を償ふの大幸福を得べければなり

一 五氣の順は土は金を生じ金は水を生じ水は木を生じ木は火を生じ火は土を生じ尙ほ火は木土に和合す

一 幹支、九星家の如く木金尅火尅金の如く相性相尅は多く用ひざるも場合に因り加へて判斷する事ありと知るべし

第七 姓名文字の運畫の區別

姓名運畫數に就て一言申述べたき事は去る年佐々木盛夫氏報知新聞に掲げて曰く姓名鑑定術は余祖先傳來にして哲理解杯と意味有り氣に書きたれ共其實曖昧にして其根本何れに有るかを辨せざる爲め哲理解等



誤魔化しの言を弄したるものと信ず予は數年研究の結果易學より出生したるものなることを發見せり如何となれば一畫より初めて六十四數に終り其餘は略して記せず猶ほ八の數は數の極と云ふ易の八卦坤の八なればなり九畫は上天にあり飛龍大空を望むが如しとあり是れ九の數は易の乾の卦にして龍變化を示すの象なり又三十九數は九の天數迄永く富貴を傳ふると有るは皆易の言葉なり故に密かに研究するに悉く適中するを以て斷乎として姓名判斷は易學より發生せるなりと確認するものなり

是れを左に掲げて判斷の基礎となす

一 屢々改名したる人は新舊の姓名を對照せざれば過去現在の善惡は的中せざる事あり然れども循環數理は一定不變のものなるを以て大體に異動なきも年度の厄に於ては甚だ異動を來せるものなり又中年後

改名したるものは年度經過の多少に依り過去現在未來の吉凶を異にするを以て特に注意すべきものなり

一本名と藝名と譬へば吉田豊秀(藝號)異名(秀山)と兩名有る場合は本名は内經濟上一家一身に關係の良否を鑑す異名を以ては其藝術の良否巧拙を鑑するものと知るべし

一、一の數は易の乾爲天の卦にして龍變化を示すの象にて貴重の運命なり萬物の初め凡て一位に位し創業の基なり併し龍の未だ雲を得ざるに先き立て動かんとする形容を示し居る姿なれば此の運畫の人は望みを起して能く貫徹し富貴幸福財産を増殖し晩年は平安無事なるべし

一、二の數は易の澤天夬の卦にして蛟龍天に登るの象にて將に大海を離れ大空に飛揚せんとする勢力を有するも未だ其雲を得ざるに剛強



に過ぎて志望を破るのみならず災害離絶を招くと知るべし其人片親に早く離るゝか或は財産を破りて平安無事の思ひ無く不和合或は進退自由を得ざる困難辛苦に係るべき運命なり

一、三の數は易の卦天大有の卦にして深谷に花の發する意日の中天につくの象にて四海萬國を照らし寛仁明智其徳高く立身出世天賦の富貴を享け世上に其の名を知られ所謂花咲く身は盛かんにして家を興し子孫に富貴幸福を傳ふるといふ運命なるも深谷は都會に遠き意味有れば或は容易に人に知られずして多少心中苦憂を懷き人に疎まれ常に不足の思ひ有らん

一、四の數は易の雷天大壯の卦にして錦を衣て夜行の意なり是れ盛大の良運なるも剛慢奢侈の爲め散財を主ざる故に吉凶相半するの數とす精神の發達を缺き不運不幸に罹る處となり身體と心と違ひ物事成

就せんとするに過失を生じて苦勞難儀に遇ふ事あるべし若し人の意見に随ふ時は錦衣郷黨に誇るの榮有るものとす

一、五の數は易の風天小畜の卦にして曉風殘月の象なり夜將に離れ大陽東天に昇らんとする場合の如く陰陽和合相親しむ若し其の人誠實ならば家運隆盛に赴き所謂五風十雨大地を潤はすが如く高名偉大の人物とならん

一、六の數は易の水天需の卦にして密雲閉して雨降らざるの象なり恰も油然と雲を起すも未だ雨降らず川留めに逢うて待居るものゝ如く凡て進行する能はずして退屈の姿なり然れども此の運畫の人は甚た幸福にして萬寶の一門に集り來り家内富榮にして物事堅固なる天徳を有する運命なり但し小人不正の心有れば他の妨害不測の禍ひ有りて危険に陥る事あらん



一、七の數は易の山天大畜の卦にして金巖中に在り龍の山中に潜居して震ひ起らんとする卦に該當せり其人山師的の意を懷き勢力を逞うせんとする企望有りて苦勞有るも後來は物事能く調うて難事を切り抜け目的を達し得らるべし則ち龍の山中より飛揚し金の岩中より掘出せし如く天賦の幸福を迎ふべし

一、八の數は易の地天泰の卦にして雁衡陽に至るの象なり恰も天地の交通雁其時機を得飛び來る如く其人交際巧みに交通の便を得一足飛に大利を占めんと山師的志望を起し尤勢力ありて衆と共に進むの力強く名實常に備はり一度立てたる志操を失はず貫き遂ぐるといふ運なり但し我が意を専らと爲せば口舌爭論絶えずして損失困難有るものどす猶は劔難質を含蓄するものどす

一、九の數は易の乾爲天の卦にして龍の深淵より飛揚し九天に在りて

其威力十分に氣燄を吐き宇宙を濶歩蹂躪すといふ状態にて人臣高位を極めたる大吉祥なれ共常人には功成り名を擧げ身退き或は冷遇を以て迎へられ大體物事の終に屬する運なれば或は常に憤慨を粧ひ萬事行はれず艱難辛苦多き運命なり

一、十の數は易の兌爲澤の卦にして新月池に映ずるの象、陰影にして誠無く道徳心に乏しく而かも此の數は零位にして家運の末世に當り所謂家運衰頽中に生れ日の西に没して將に暗黒に變じたる場合と同じ其人或は兩親に早く離れ他家の厄介となり成長すべき凶運にして大艱難大辛苦身は薄衣にして寒風膚を刺し涙潸然たる境遇に接する事あらん

一、十一の數は易の火澤睽の卦にして桃李競發の象なり恰も草木の種子春陽に逢うて發芽したる姿にして其人總領の資格を有し且つ家運



の最初に當り譬へ二三男に生れたるも相續人となるか又は分家となりて新設經營するか自身が智謀を以て幸福富貴を迎へ尙其の心情亦端正潔白の人物なるべし

一、十二の數は易の雷澤歸妹の卦にして顛倒齟齬の意なり甚た大凶の數なり一生涯希望を達する能はざるのみならず親に早く離るゝか己れ先き立つか或は他へ離れ行くかの類にして或は寡婦孤獨の身となり苦勞艱難身に纏うて離れざる思ひ有らん然れども他の配合宜しければ中年後晩年は目の上の人に引き立てられ富貴安全を保ち無難の中に身を終るべし

一、十三の數は易の風澤中孚の卦にして鶴鳴童子之れに和するの象にて孚あり私慾なく至誠にして心中潔白方正の人物而かも幸福高名を爲し目上の恵みを享け立身出世家業は世の信用を得て繁昌なる吉祥

の運命なりとす

一、十四の數は易の水澤節の卦にして筭を作つて自ら陷落する凶運にして水の澤中に有り湛へ流れざる姿なり然れども澤中に満溢るゝ時は猛烈なる勢力を有し是を支ふる能はず其人山師的に威權強く恰も自稱哲學者ともいふ可く人を輕蔑して兎角和合せず自ら常に不足の思ひありて困難を感じ然れども中年後多少幸福を得る事あらん

一、十五の數は易の山澤損の卦にして貴賤位を正する象なれば仁義を懷き靜肅端麗にして富貴高名をなし目上の恵みを得立身出世一身安全繁昌する吉祥の運命なり

一、十六の數は易の地澤臨の卦にして地の陰とす母に譬ふ地の徳を以て萬物生養するは恰も慈母の如く凡て好果を生ずる實に吉數中の吉とす所謂少女母に従ふの意にして貴賤となく能く相交り愛憐を主と



す故に人の悦服する事水の低きに就くが如し最も貴重の運命にして  
一生中富貴幸福必ず上位を占め高名を擧ぐる人物となりぬべし

一、十七の數は易の天火同人の卦にして日輪天中に有るが如く其明德  
高大の象にて其人威權勢力有る運命なるが萬事他人と和合せず我が  
意を貫かんと欲して時に無理非道の處置もあらん又他人を眼下に見  
下す等の勇威を有する運命なり然れ共他の天理五行宜しければ甚た  
厚德有りて人に尊敬せられ富貴高尙の位置に立つ運命となる

一、十八の數は易の澤火革の卦にして腐草螢火となる象にて物の變革  
する意なり故に舊きを捨て新しきに就く卦象なり其人家運一變して  
大謀を企て威權擴張の勢力を有し一度立てたる志望を貫徹し物事成  
就し高名利達の人物なるも劍難の象ある運命なりとす

一、十九の數は易の離爲火の卦にして雉網に罹りたる象なり此の運畫

の人は百般の樞要に當り大事大業を起すの志想有るも到底行ふ事能  
はざるのみならず他害の係る處多く必竟家運の衰頽に屬して轉た悽  
愴の感を生ず或は親に早く離るゝか其身他へ離れ行くか免角内外人  
と無く親しみ難く物事意の如く行なはれずして艱難辛苦多き運格な  
り

一、二十の數は易の雷火豐の卦にして俊雉を攬ふるの象なり不意の  
禍ひを主ざる處なるも一度は利益盛大に勢力増加し華美榮華を極め  
去りて無運に陥りたる大凶運にして困難辛苦に耐へ得ずして終身を  
完うする能はず或は短命となるか尙ほ且つ劍難をも含蓄し居れば危  
難に逢ふことあるものとす

一、二十一の數は易の風火家人の卦にして窓より月を見るの象なり内  
明かに外順に内外各正確なる態度を有し修身齊家の道を完うして家



四〇  
富み繁昌する吉數なり家運の最初に當りたる故其の人多少辛苦有も  
後來は増福の身となり頗る貴重の人物となるべき運命なりとす

一、二十二の數は易の水火既濟の卦にして芙蓉霜を戴くの象なり幼年  
中は幸福に生れ身に美服を纏うて他の羨む處となるも壯年後漸次衰  
頽を來し恰も芙蓉の賞觀せられたる姿も秋霜に逢ひて嬋娟麗姿忽ち  
萎凋する如く其の人萬事意の如くならず又事を果さんと欲する勇氣  
なく艱難辛苦に陥る運命なりとす

一、二十三の數は易の山火賁の卦にして門内に美を競ふの象にて虎の  
林を出て遊ぶの意あり故に大事大業を上達し物事能く勝を得或は一  
國の政治を司るか又は頭領と成るかの類にして高名富貴を得華美を  
飾り大厦高堂に壽杯を酌むの榮あらん

一、二十四の數は易の地火明夷の卦にして雨後苔色の意にして枯死せ  
んとして復た再生す而も雨の情けに潤うて生き歸る如く人は天賦の  
幸福上位の恵みを享け立身出世無形より有形を作り出し事を成し勝  
を得て名を擧げ輝かす吉祥の運命なり

一、二十五の數は易の天雷无妄の卦にして雷暑さに逢ふて震ふの象な  
れば威權勢力充分なる幸福の時機に際して宇宙を跋扈する如く立身  
出世高逸の位置に立つべき英敏智達の運命なれども一利一害を有し  
不和或は和平を保ち得ずして家族分離するか何か望みを達せんと欲  
するも他害の係る處となりて兎角損害に逢ふ運命なり

一、二十六の數は易の澤雷隨の卦にして雷澤中に潛伏する意味にして  
一生中の大凶運なり併し尙ほ壯年中は平安ならずして或は短命なら  
んか兎角大辛苦慘憺たる境遇に接すること有べし最も酒を嗜み惡癖  
あり又劍難の運命を有す



一、二十七の數は易の火雷噬嗑の卦にして夫婦間に怒るの意、悦び有り怒り有る姿にして吉凶相伴ふの運勢なり壯年中は他人よりの譽を愛け幸福有るも中年は不測の禍ひに係りて失功となり辛苦慘憺の場合あらん然れ共慎み深ければ大に發達榮昌ありて大名を擧げ大幸福來るべき運命なりとす

一、二十八の數は易の震爲雷の卦にして二龍球を競ふの象にして不和爭論を主る處劍難の相あるも一度は幸福を迎へ大利を占むることあるべし而も愕然として過度の災難に遭遇し或は刑罰に觸れ心氣宜しからず其身も他の知らざる奸謀を起し自ら罪を構造すといふ性質ある運なり

一、二十九の數は易の風雷益の卦にして鋤鋤邦を利するの意にして風雷相互に助け益する處其順ふ處百事吉兆なり其人性質博達物事發明

工夫に富み萬事に長じ才能無比の運勢なれば望み事實徹して大功を奏し大名を成し富榮を迎ふる良運なり

一、三十の數は易の水雷屯の卦にして草昧寧からざる意にして恰も水中に草の芽を出さんとするに一物上に在りて覆ふ故に屈して伸ざる姿なり利害折衷善惡共に行はれ成功と艱難と相半ばして恰も綯る繩の如し併し其勢力は天龍震動せんとする如し目標なく危難を含み居れ共切り抜け困難軽く成功多き結果を得る運命なりとす

一、三十一の數は易の山雷頤の卦にして匣の中の物を秘するの意、龍の淵に隠る、卦象なるを以て其人勢力逞しく智謀深遠豪傑の氣風を存す大山をも打碎き新たに平坦の地を造り出す不撓不屈の勢力を以て大事を成し遂ぐる吉祥の運命なりとす

一、三十二の數は易の地雷復の卦にして地を掘り珠を得るの象既に陰



極り春陽發起の時に際會して物事生長する卦なれば多幸の人諸事思ふ如く成就すべきも若し上位の庇護を享けざる時は日の西山に在るが如く自然衰頽を來すべし故に目上の人に從うて吉なり

一、三十三の數は易の天風姤の卦にして鳳出て鸞に逢ふの意にて乾陽の盛なる姿なり其人運勢盛大恰も日の東天に昇登する如く智有り勇有り有徳剛氣にして萬事を切り抜け大功を奏するの運命なり

一、三十四の數は易の澤風大過の卦にして馬を花街に走らすの意なれば何事に従事するも安心無く苦辛慘愴一度大凶來る時は重ねて凶を生じ自ら幸福を喪失するもの、如く艱難一生に來り貧苦に耐へざる運命なりとす劍難を含む

一、三十五の數は易の火風鼎の卦にして鼎鼈調味の象なり鼎は三足時ち互に相助けて和合す且烹飪して善を取り腥を變じ熟して香味と爲

す如く吉凶兼有の運にして成功と素志と智達の能力を有すれ共上位を保つべき權威に乏しく多くは文字技藝の人物となり普通ならば大體中年後辛苦多き運命なり

一、三十六の數は易の雷風恒の卦にして並び行き相背の象なれば物の散失するの意ありて恰も風の變動するが如く其人一生の大凶運にして大艱難大辛苦逃れ難く不運不幸の責に逢ひ貧苦困難に耐へず或は病身なるか短命なるべし劍難を含む

一、三十七の數は易の巽爲風の卦にして颶風船を覆がへすの象にして恐惶の念を起さしむるも風は君子の徳に譬ふ物事通達萬物和暢して能く調ふ人は志望有り貫徹し立身出世の運にして天賦の温和靜謐を保ち事に臨み忠實に克く衆を纏め他と共に一致して天徳を治め奏功するの運命なりとす



一、三十八の數は易の水風井の卦にして病人市に行くの象なれば肩に助けられて目的地に至る如く恰も井の水靜止し居るを人に汲み上げられて其用を辨ずる如く己れ一分の働きを以て望みを果さんと欲するも其力乏しく達する能はずして困難辛苦多く成功を顯はさざる運命なり

一、三十九の數は易の山風蠱の卦にして山中に風を含んで未だ發せざるの象なり風は長く止まるに非ず其の人威權逞しく猛烈の勢力を胸中に包藏し一度發する時は風の草を靡くる如く一令の下に服従せしむ且つ威權と財産と生命と三徳を保ち九の天數迄は永遠不朽に富貴幸福を保つべき運なり

一、四十の數は易の地風升の卦にして橋上往來の象なり橋梁は危險なる場所に便利を得せしむるものにして其人精神確實智謀群に秀で勢力剛毅事に望んで奏功威名有れども或は謙遜の心に乏しくして人と不和合の性分なるが故稍もすれば衝突攻撃を來す晩年は失敗を享くるものとす

一、四十一の數は易の天水訟の卦にして乾陽上に在り坎水下に就く象なり真正和順を得る吉數にして大智謀大豪毅必ず大業を成し遂ぐる富貴高名を得或は有徳の君子も有らん多分其家運の最初に當りて親子其業を異にし自身の智識を以て富榮を得べし

一、四十二の數は易の澤水困の卦にして鴉枯木に啼くの象、陰然寂寞悲哀極まる姿にして其人高尚博達に猶發明工夫に富み萬事に長じ能藝有るも熱心に乏しく貫き遂げ得ず兎角困難貧苦の凶運なりとす

一、四十三の數は易の火水未濟の卦にして花落實結ぶの意にて散財を主とする其人物取留の意思無く徒らに權威智謀を弄し他の信用を損ふ



併し才能ある運命なれば壯年中年は苦辛慘憺多く家族分散の意あるも晩年は人の恵みを得幸福を來し所謂實を結ぶの好機會に接する事あるものとす

一、四十四の數は易の雷水解の卦にして雷雨緩散の意あり恰も籠鳥故山に歸り魚の網を逃る意味にし有れば人は艱難辛苦身に耐へず困難有り多くは大家の滅亡を相續せる人にして時秋の末木枯の風に逢ひし草木の如く家族離散し落寞凋愴身に檻縲を纏ふの時あらん

一、四十五の數は易の風水渙の卦にして順風に帆を駕するの意あり危険なる大海も順風に遭ふては速かに目的地に達して意の如く利益を得其人太經綸大計畫を抱き萬事を切り抜け如何なる艱難も意とせず大膽にて全身皆智謀なる大氣風を存す一生一回は巨富高尙の位置を占むるも多少苦辛有る運命なり

一、四十六の數は易の坎爲水の卦にして寶を載せて船を破るの意あり故に剛氣に過ぎ患難危窮の中に陥り大貧苦を來し或は短命冤罪を享け一生安心の意思なし然れ共他の配合宜きを得ば短命は逃るゝ事あらん

一、四十七の數は易の山水蒙の卦にして生花未だ開發せざる象なり故に雲霧の潤養を得て咲き初むる如く其人上天の助け有りて自然目上の恵みを得相親み互に喜び家富み長く繁昌するといふ漸次に貴重の運命なりとす

一、四十八の數は易の地水師の卦にして寡を以て衆を伏するの意にて元帥の象なり而て帥は亂を治むるの器にして其人智謀有徳の才を有し其所の顧問とも頼れべく天資の幸福富豪を有する運命なり

一、四十九の數は易の天山遯の卦にして貴人山に隠るゝの象なり此の



運勢は幼壯年は他の尊敬を享け萬事行はれ幸福あるも中年以上大凶となりて損失散財加ふるに他より批難を招き辛苦艱難に終る恰も井を鑿て水無きもの、如くなり

一、五十の數は易の澤山咸の卦にして鶯吟じ鳳舞の象其人至誠にして天地鬼神も感動せしむるの厚德ありて財寶自ら集り盛大を極め一度は大業を成し幸福を得るも終りに不測過度の艱難に遇ひ困難苦慮有る運命なりとす

一、五十一の數は易の火山旅の卦にして日西山に傾くの象、恰も悲哀を含み旅中に居る姿にして安樂に似て安堵ならぬ苦勞あるべし其人温和幸福天賦の高名を得一度は利名を擧ぐるも大家の衰頽に際會して生れ來る人にして漸々損失不和不幸憂苦を來し而かも暗黒の境界に陥るもの、如くなり

一、五十二の數は易の雷山小過の卦にして飛鳥山を過ぐるの象なり山師的の志想を懷き一足飛の利益を得んとし勢力充分盛大に他人の出來得ざる事迄も成し遂げ無形より有形を造り出し功名利達の人物なれば物事始終先見に鋭くして貫徹し幸福ある運命なり

一、五十三の數は易の風山漸の卦にして山中に木を植るの象なり家運の最後に生れ廢れたるを起し新たに幸福を迎へ富貴の身となる運にして恰も草木發芽して雨露風雪の難を経て漸く巨木と成る如く其人艱難辛苦臥薪嘗膽に逢ふも中年後巨萬の富を得るの運命なり

一、五十四の數は易の水山蹇の卦にして寒蟬風に悲むの象なり故に夏の暑さに清涼の音聲樹頭に發するも秋風に身を痛め物哀れの姿と成る如く人は奢侈贅澤を極め他の羨む幸福に生長せらるゝも大家の衰頽に屬し損失破損不和憂苦如何んどもする能はず血涙禁じ難き貧苦



に陥るものとす

一、五十五の數は易の艮爲山の卦にして山上の關を閉鎖するの象なり安きに似て安きに非ざるは防禦の地なり其の人上運なれども物事堅固の思ひ無く時々大災難に係り損失困難有り而し後來は志望十分に行はれ幸福を來すべき運命なり

一、五十六の數は易の地山謙の卦にして山の高きを以て地下に隠れ居る象にて謙遜の態度なり君子ならば吉兆なるも普通人は甚た凶惡の運命にして物事意の如くならず苦心算と違ふ何事も實行する勇氣を失ひ總て世に後れ損失破散に罹る運命なり

一、五十七の數は易の天地否の卦にして寒鶯春を待の意あり時機を待てば順を得ると雖も其氣相離れ未だ通せざる姿也而し其人上運の吉數にして天賦の幸福に位し萬事意の如く行はるゝも一生中一二回大

艱難に逢ひ生死計られざる境遇に接す可し但し他の配合宜しきを得ば斯る艱難無きも然らざれば或は亡滅に係るべき運命なり

一、五十八の數は易の澤地萃の卦にして妓歌衆順ふの意にて事物聚會する姿なり集るは散亂の基にして衰ふるの初めなり其人幼年は盛なるも亡身亡家の災難に逢ふ事あり然れども金錢財寶には縁あるものとす

一、五十九の數は易の火地晋の卦にして滿地錦繡の象にて人は繁昌榮花極りたる姿なり普通人は凶惡の運命とす不幸損失災難に係り一家或は一身を亡滅する運命にして何事に對するも忍耐と勇氣に乏しく物事爲し得る能はず困難辛苦を來せるものなり

一、六十の數は易の雷地豫の卦にして雷地を出て震ふの象なり目的標本無く大空を飛走する如く其人住所安寧ならず替る事あるの凶數に



して何事も成功無く物事無目的に着手するもの、如く意外の大損失  
大困難を享け苦辛慘憺の運命なりとす

一、六十一の数は易の風地觀の卦にして風塵埃を揚ぐるの象なり風の  
地上を行き偏く觸る万物周觀の象とし万民の爲めに瞻仰せらるゝの  
義を以て徳は本也財は末なりといふ吉數にして仁徳を行へば名利共  
に蔓り弘まりて自ら金錢の集る處となるも若し不仁を行へば家内和  
せず物事疑ひ多くして平安を保つ能はざる運命なり

一、六十二の数は易の水地比の卦にして衆星北に拱するの象あり頼る  
處有りて之れに従ひ見る處有りて是れに至るの意ありて幸福の位に  
在るも信用乏しく家事不都合にして兎角素志を果す能はず家勢の困  
難辛苦を來すべき中運の凶數なり

一、六十三の数は易の山地剝の卦にして枯木の榮花を發し人再生の思

を成し憂患剝脱の意あり上運の吉數にして万事万物を養生し産地を  
潤ほし黄金を永遠に保持し實に完全なる富豪の運命なり

一、六十四の数は易の坤爲地の卦にして老陰にして万物の母とし地と  
す博厚無疆にして万象を生長す頗る至尊の徳を有し其人温良靜直殊  
に愛憐深く衆人に敬はれ幸福無比富貴を永遠に傳ふる最良の運なり  
とす

一、六十五の数は易の乾爲天の卦にして万物資て始まるの意にて花の  
將に燃ゆんと欲して開く能はざる姿なり人は其家運の最初に當り高  
福の運命なれども多くは己れが利口を以て人の意見を聞かず身高振  
りて人の批難攻撃を受け損害を招く事あらん若し謙遜を守り人に従  
ふ時は却て衆人に尊敬せられ幸福偉大の人物と成る運命なり  
一、六十六の数は易の澤天夬の卦にして含弘斐有るの象あり萬物生養



する恰も陰々たる寂夜萬象を潤す如く亦東流の水の如く動けば濁り  
静なれば清む其人温厚清廉にして幸福盛大なるも或は愛憐に過ぎて  
餘義なき人の爲めに損失心配を來して中年後不測の禍ひに係り辛苦  
艱難に陥るものとす

一、六十七の數は易の水雷屯の卦にして草の始めて生じて未だ伸ざる  
も漸々成長する意味なり其人家運引立能く志望を達し家産を増大な  
らしめ衆人の上位を保ち富貴繁昌の良運なりとす

一、六十八の數は易の山水蒙の卦にして思ふ事ありて決せず願ふ事あ  
りて果さず恰も巖險雲烟の中に在る如く前後を辨せざる姿なり幼壯  
年中は兎角意の如くならず而し艱難あるも中年後天賦の幸福を得て  
立身出世高名富貴の人物となる運命なりとす

一、六十九の數は易の水天需の卦にして物事塞がり止まる意にして目  
に見て手に取られぬ象常に憤然たる態度を有し且つ親に早く離るゝ  
か死別れとなるか或は不和合と成る凶運にして大困難に遭遇する運  
なり

一、七十の數は易の天水訟の卦にして雪中梅綻ふの象にて是急迫して  
天の時機を待たざる却て險難に陥る姿なり猶此の七十數は零位なる  
を以て其人無運無資格の大凶なりとす一生苦辛慘憺災難等に係る憂  
愁有り然れ共人の意見教戒を用ふれば立身出世富貴幸福を得る運命  
なり

一、七十一の數は易の地水師の卦にして龍山中に潜伏して勢力を養ひ  
威を逞うせんとする象なり故に其人高名偉大の人物となるか或は家  
運を盛隆ならしめ幸福金満家となる良運なりとす

一、七十二の數は易の地天泰の卦にして心中なやみ多く諸事表裏を異



にし恰も明月隠れ暗きに向ふ意にして不運不幸何事に従事せんと欲するも不充分の思にて行ふ能はず然も他の配合の宜しきにより高位に立ち衆人をして屈服せしむる大徳の人物ともならん

一、七十三の数は易の天澤履の卦にして尊卑分定の象なり少女父に従ひ貞操の教訓を受け嚴肅なる態度を有し其人言行方正に家事改良を謀り新たに富貴の家とならしめ永遠に繁昌を子孫に傳ふるといふ運命なりとす

一、七十四の数は譽有り譏有る意にして吉凶兼有其人萬藝の才能有りと雖も浮沈多くして喜び寡なし不和の兆含蓄せられあり然し仁心有る人は自ら財寶集り來つて身安全家豊に繁昌する運なりとす

一、七十五の数は易の火澤睽の卦にして方圓長短相背の意にて家運變動有りて多くは親の業を繼續せず自分智略を以て新營し富貴となる

へし併し内外人と和合せず稍もすれば争論なご多くあるものとす

一、七十六の数は易の澤雷隨の卦にして雷澤中より出て震はんとする象にて上運に位し萬事意の如く成就し高位を占め或は金満家となるか一生難儀の起る無く終身を完うする運なり

一、七十七の数は易の風澤中孚の卦にして至誠は明鏡の如く能く萬象を寫すといふ意あり故に其人は忠孝貞心有りて衆人と相親み志望貫徹して富貴幸福を得家運繁昌なるべき運命なりとす

一、七十八の数は易の水澤節の卦にして狐泥中を渉るの象にて危険を意味すれども自然と程能く通ずるも兎角艱難多し併し中年前後迄は思ふ事有りても實行の力無く又疑ひ多くして時機を誤り損失災害に逢うて苦辛に耐へざるも晩年近きに至り目上の愛顧を得幸福を迎へ繁榮子孫に傳ふべき運勢なりとす



一、七十九の數は易の山澤損の卦にして奢りを損して孚を存す至善の象にて君子の風有り高尚偉大幸福盛大巨萬の富を得るか或は高位高名の人物となるの類なり然れ共若し不仁なれば内外となく不和合に且つ批難攻撃を享け大艱難劍難等に罹るべき運命なりとす

一、八十の數は易の地澤臨の卦にして零位にて無運無資格の人なり故に一生志望達せず幼年にして親に離れ辛苦艱難慘憺たる境遇に逢ひ困難貧苦なるべき凶運なり

一、八十一の數は易の天火同人の卦にして闇夜に燈を揚ぐるの象なり同人は親しみ厚くして親疎遠近を言はず歡樂憂困總て他と共に同する卦象なれば其の人温良篤實天賦の幸福を享け富貴の善兆なり前記は運畫數を簡單に其大意を説明したるものにして各人の姓名も大略斯の如き運命の支配を受くべきを示せるなり

第八 異例

九、十、十九、二十、二十六、三十四、三十六、四十六の數は皆親に縁薄くして親に早く離れ死別等の凶運なり然れども自身は他へ行きて離れ居れば兩方安全に保つ事多し

一前項の凶惡に係る姓名は他の配合凶惡にして五氣配合のみ善良なる時は惡意を起すものなりとす併し文字の讀下し(解釋の意)善良なる時は少しく災難は軽く多少幸福を享くるものとす

第九 一生中の厄年

一厄年にも種々ありて前後二ケ年或は三ケ年四ケ年と前後共に連續する有りて其姓名の運に依りて善良なる人は大利を占むるも運惡き人は病氣損失災難或は親しき人に離れ惡事交々來ると知るべし其區別左に記すべし



一 人生れて初年及五歳は乾の厄十歳は坤の厄、十四歳は乾、十九歳は坤、二十歳、二十三歳は乾、廿四歳、廿五歳、廿八歳は坤、二十九歳、三十歳、三十二歳は乾、三十三、四、五歳三十六歳は坤、三十九歳、四十歳は乾、四十四、四十五歳は坤、四十八歳、四十九歳は乾、五十三歳、五十四歳は坤、五十八歳、五十九歳は乾、六十二歳、六十三歳は坤、六十六歳、六十七歳は乾、七十一歳、七十二歳は坤、七十五歳、七十六歳は乾、七十九歳、八十歳は坤、等に於て大體厄年の前年秋八月より係るものなり其心得すべし

一 前項の起算法は各人生れて初年を一に定む一より起算して五年目に至れば乾の厄とす十年目に當れば坤の厄となり又坤の厄の十を一に定め起算して五年は乾の厄十年は坤の厄となり其起算法は十を亦一に數へて乾坤の循環數理の厄を定むるものとす以下皆な此起算法に依るべきものとす

一 男女老若に拘らず死命に接する期點は循環數理の坤の厄に當り其の厄年度前後に於て死亡するものなり又乾の厄に係る年度に旅行せば病氣に罹り乾の後厄に於て死亡するもの往々之あり之は乾の厄を犯し旅行したるに起因せるものなり

一 循環數理の厄を享くるには壯年中年前後は多く後厄を享くべし中年後晩年は其厄の當年か或は前厄を享くるものなり故に二十四歳は乾の後厄に係るも二十五歳宜しからずして二十六歳辛苦し二十七歳坤の前厄に係るを以て又苦慮し二十八歳坤の厄に當るを以て災難に逢ひ二十九歳其後厄を享け困難を來し三十歳吉凶なきも不幸に遭ひ苦慮するものなり注意せずんばあるべからず大略右の如く前項に注意して可なり、少年は人生れてより二十歳迄壯年は二十歳より四十歳迄中年は四十歳より六十歳迄老年は六十歳より七十歳迄とす



一 循環數理の厄は男女共に同一に適用し女子の如きは總ての災害あり  
意外の離婚又は破婚を生じ或は結婚の吉凶も其厄年度に於て實行す  
る時は破縁又は凶事の生ずべき恐れあるを以て忌べきものなり注意  
して可なり

一 循環數理は日本國の年度にも厄有又其國其處其村に於ても總て循環  
の年數により凶惡を生ずるものなり其算出法も其國其處の大凶事有  
りたる年度を一位に定めて起算し本例の起算法に依り算出すべきもの  
なり則ち明治元年の如きは是れなり

一 訴訟敵味方に在りて彼も循環數理の前厄にあり自己も亦循環數理の  
上運に非ざる場合は雙方姓名の天理五行を見定め自己の運命拙なき  
時は代理者或は助力者加勢者を得て運動せば上策にして勝利疑ひな  
きものとする

一 春生れの人と秋冬生れとは少し差違有るべし故に同年の生れなるも  
皆同時に禍福來るに差違あるは夫れが爲めなりと知るべし

銘々の厄年に宛て過去の實驗に照し記憶し置き適中の厄は表記して  
其前後を確め置けば屹度外れ無く命中すべし此厄年に當る年は能く  
心動き他に思を轉じ或は希望を起すものなり然れども事成り難きの  
みならず失敗の基なり稀には利益あるも他日損失の原因となり或は  
保ち難きものなり上運の人は正反對に奏效有ると知るべし

第十 循環數理に係る年度の吉凶

前項厄年を細説すれば循環數理の善惡は其年度の吉凶に依り乾の厄に  
當れば大凶事を生じ刑罰短命亡家亡身艱難辛苦困難破産の凶禍に係る  
べき厄年に當るものなり又坤の厄に當れば損失失敗、批難、攻撃、苦情、  
不和等の凶事を生ずべき厄年に當れるものとする



循環数理の厄に係りたる年は三十里以外の地に三日以上の滞留旅行せは臨時の災禍に罹り病氣短命損失失敗の凶難に陥り不幸不運を來すべきものなり注意して可なり

男女子供の有無多少は夫婦配偶の年月と乾坤組合の如何を以て子の有無を見定め夫婦の年齢を合算して循環数理の厄年を應用せば生子の幾人あるや否男女區別して幾人の子あるや及子供を妊むべき年月日を明かに鑑定し得るものなり

前記の五行に對照して姓名の凶悪なる時は是非改名せざれば凶禍を免かるゝ能はざるを以て天命を俟つの外策なきものとす譬へば天地配置及乾坤組合は善良なりと雖も文字讀下し凶悪にして合姓名の運數吉ならざる時は總て改名を要すべきものなりと知るべし

一凶悪の姓名を改名せば短命は其當時より免かるべきも災難、劍難、不

幸、不運の如きも漸次消滅するものとす且つ凶は變じて大吉となり起運増富の大幸運に向ふは疑ひなきものとす

一改名は一ヶ年毎に困難を減じて自然餘徳を受くるは自ら知得する處なれども全く凶禍を翻して富貴幸福の人物と自得せんとするには滿五ヶ年を経過せざれば十二分の結果を得る能はざるものなり

一天理五行完全にして文字讀下し及姓名の運數と天地乾坤の配置組合共に善良なる人物は如何なる艱難辛苦不運不幸に際會するも決して恐るゝに足らず他日其不遇を償ふの大幸福を得ればなり

一山師的の商業事業其他競争的の運動に従事せんと欲する人は自己の年齢と相手人の年齢と對照して吉凶を定め尙ほ循環数理の吉凶に照し何れか上運に位するや否やを見定め若し自己の運命凶悪なりと認むる時は速かに相手人より上運の人物を撰定し自己の代理者或は運



動者として其事を實行せしめば如何なる難事と雖も完全なる勝利を得るは疑ひなきものとす

第十一 男女生兒の有無説明

乾坤の組合により男女夫婦の間に子供の有無厚薄及生兒の幾人あるや否やを鑑定するものなり其乾坤組合の鑑定法は以下左の各項に説明するものなり

一 男女一一生中夫婦の間に生出すべき子供の數は一婦人にして十二人或は十三人の分子を限り生出するものなり而し一男子にして數婦を娶る時は其婦人の數に依り生兒の幾人有るや否や其男子に對しては判定すべからず  
一 子供の厚薄、多寡、有無は男女乾坤の黑白多少に依り有無厚薄多少有るものとす喻へば夫の名は坤計りにして妻の名も坤計りなる時は一

一生中に生兒の分子は一人もなく又夫の名は坤計りなるも妻の名は乾計りなる時は五六人の子供を生ずるものなり又夫の名は乾計りにして妻の名は坤計りなる時は四五人の生兒を出産するものなり  
一 夫の名は乾坤にして妻の名も乾坤なる時は五六人の生兒を産むものなり夫の名坤計りにして妻の名は乾坤なる時及又夫の名は乾坤にして妻の名は坤計りなる時は四五人の生兒を産むものなり或は夫婦共に乾計りの名は全効生兒十二三人を生むものなり  
一 夫婦一生の配偶中に妊むべき年度は婦人の循環數理の乾坤の厄前後に於て懷妊すべきものなり故に婦人年齢の乾坤厄に對照して其子の多寡及男女有無の區別を定むるものなり  
第十二 婦人妊娠の日月に期定を示す  
一 婦人の懷妊すべき日月に期定あり總て女子は十四歳にして男子と交



合せば卵子を妊むべきものなり十四歳にして月水行るものなればなり其日月の期定を以下左に説明すべし

- 一前項懐妊の期定は十六歳、十九歳、二十二歳、二十五歳、二十八歳、三十一歳、三十四歳、三十七歳、四十歳、四十三歳、四十六歳、四十九歳の年齢に當る時は一月、四月、七月、十月の四期に卵子を妊娠すべきものなり
- 一又十四歳、十七歳、二十歳、二十三歳、二十六歳、二十九歳、三十二歳、三十五歳、三十八歳、四十一歳、四十四歳、四十七歳、五十歳の年齢に當る婦人は其年二月、五月、八月、十一月の四期に卵子を妊娠すべきものなり
- 一又十五歳、十八歳、二十一歳、二十四歳、二十七歳、三十歳、三十三歳、三十六歳、三十九歳、四十二歳、四十五歳、四十八歳、五十一歳の年齢に當る婦人は其年の三月、六月、九月、十二月の四期に卵子を妊娠すべきものなり

斯の如く記すると雖も男女の病症に據り妊娠子供無きもの有るものとす

幹支術の厄年

人生れて初年及四歳、七歳、十歳、十三歳、十六歳、十九歳、二十二歳、二十五歳、二十八歳、三十一歳、三十四歳、三十七歳、四十歳、四十三歳、四十六歳、四十九歳、五十二歳、五十五歳、五十八歳、六十一歳、六十四歳、六十七歳、七十歳、七十三歳、七十六歳、七十九歳、八十二歳、八十五歳、八十八歳、九十一歳、九十四歳、九十七歳、百歳なりとす

右の厄年と前項の姓名術の厄年と見合せ判定すべし

第十二 九星化氣學人事豫報占例 (リヂム)

何本命の人にて左の星に逢うては種々なる境遇に接するなり最も悪しき年悪しき月日を重なる場合は善悪共一層強むると知るべし



一、一白星は凡て平穩の性なれば事物澁滞するも利益と成る或は珍らしき人に逢うて世話事あるべし

此の星に當る人は物好き贅澤なり何にか手に入る可きも併し思ふ事は抄取らず油断すれば外れる事あるべし

一、二黒星は凡て放膽破壞的にして甚た悪し親しき人に離るゝか或は病氣損失等に罹る事あらん

此の星に當る人は待つこと駄目なり氣持悪く人に別るゝ事あらん又た損分になる事多し

一、三碧星は小心翼翼々々多忙慶事的にして助力者を得利益有りて愉快を感じ希望叶ふべし

此星に當る人は好き人の世話を受けて必ず儲くる事あり氣分爽かにして忙がしき故商賣も有り又兼ての相談も纏まる可ければ

氣善く待つ可し

一、四綠星患難殺戮的にして甚た悪し或は不測の災難に罹り或は不和爭論起りて血を見る事あらん

此星に當る人は苦勞絶えずして氣持に勇みなく夫婦間には苦情度々起り妻は口舌く小言を唱へたまけにれこらるゝ事多かるべし

一、五黃星主權的にして決斷履行す或は人に信用せられ又た恵みを蒙りて好事有るべし併し己れ人を信用して事を託する事には過失損失等を招く事あらん

此星に當る人は餘所の人が信用して呉れ世話便りも有り思ひ切りて爲す事は多く成就すべし併し人に物を託しては間違出來人に迷はさるゝことあるべし



一、六白星は剛毅拒絶的なれば希望遂げ難きのみならず兎角障碍有りて争論起り或は裁判出訴等の難儀起らん

此星に當る人は諸事苦辛せし甲斐なく他より拒みを受くるのみならず人に悪しく言はれ且苦情起りて裁判所へ迄引出さるゝ事出来すべし病人は胸苦しきか或は頭痛等の持病起るべし而し或は一方より思ひ知らぬ金は舞ひ込みて助くる神有らん

一、七赤星は世華的にして凡て悦び事に逢ひ或は結婚縁談の所望申込まれ或は世話助力等に預り商賣繁昌といふ幸あり

此星に當る人は譬へば惚れ込んで居る人に嫁入りになる程の悦びあるべし夫れに世話する人有り久々に逢ひたる故に一杯呑みし氣持なるべし追つ付け家作にも取かゝるといふ贅澤なるべし萬事幸運なり

一、八白星は思慮的にして疑惑百出し凡て決し難く時機を失して損害を蒙り病氣起りて或は重くならん

此星に當る人は幾程考へても名案も出でずして詰り損となるのみなれば快々として樂ます夫れに病氣起りて如何とも致し難かるべし

一、九紫星發揚的の運軌道にして凡て進むの氣強く發達或は希望を起し或は遠行すべし故に病人なれば勇ましく快方に赴くべし

此星に當る人は萬事に就き直ぐには好結果を得ず若し多少見込に違ふ共他日屹度成就すべし又方向替る事あらん病人なれば今朝はとんと勇ましく御飯も進むといふ勢なり

普通の九星は専はら相生相尅を標準として運命の吉凶を判断す譬へば木は金に尅せられ金は火に尅せられ火は水に水は土に土は木に木は火



に尅せられ是等は皆凶にして災害或は家内中苦情有るか親類中に争論有るか平穩無事の思ひ無く損害多しと知るべし

比和とは木と木、火と火、土と土、金と金、水と水なり是等は俗に本命中宮に入ると稱して進退共に宜しからず大に身の變動を生じ不意の損害を招く事あり或は色情の爲めに散財す

相生とは木と火、火と土、土と金、金と水、水と木との類皆親和して大吉にして幸運盛大利益ありて何事も發達の兆有れば萬事進んで宜し吉なり杯と有り然れども予が感ずる處に非ず如何と成れば實地判断上則ち兵隊の如き皆同年なれば如何ともする能はざるべし併し九星幹支家には生年月日時を要するといふ然らば何星の人はごふたとかといふは如何ん寧ろ云はない方が勝るべし

第十四 九星化氣循環及吉凶表 英語(リチム)と云ふ

大正三年八月より月の繰り方を示す		大正四年より繰り方を示す		是は年々循環するの星なり		茲に記する處の一二三は己れの本命星なり	
二月	五月	八月	大正三年	大正三年	5	主	剛
三月	六月	九月	大正三年	大正四年	4	剛	世
四月	七月	十月	大正三年	大正五年	3	世	思
五月	八月	十一月	大正三年	大正六年	2	思	發
六月	九月	十二月	大正三年	大正七年	1	發	平
七月	十月	大正四年	大正四年	9	平	放	小
八月	十一月	大正四年	大正五年	8	放	小	患
九月	十二月	大正四年	大正六年	7	小	患	主
十月	大正五年	大正五年	大正七年	6	主	剛	世
十一月	大正五年	大正六年	大正八年	5	世	思	發
十二月	大正五年	大正七年	大正九年	4	發	平	放
大正五年	大正六年	大正八年	大正十年	3	平	放	小
大正六年	大正七年	大正九年	大正十年	2	小	患	主
大正七年	大正八年	大正十年	大正十年	1	主	剛	世
大正八年	大正九年	大正十年	大正十年	0	世	思	發
大正九年	大正十年	大正十年	大正十年	9	發	平	放
大正十年	大正十年	大正十年	大正十年	8	平	放	小
大正十年	大正十年	大正十年	大正十年	7	小	患	主
大正十年	大正十年	大正十年	大正十年	6	患	主	剛
大正十年	大正十年	大正十年	大正十年	5	主	剛	世
大正十年	大正十年	大正十年	大正十年	4	剛	世	思
大正十年	大正十年	大正十年	大正十年	3	世	思	發
大正十年	大正十年	大正十年	大正十年	2	發	平	放
大正十年	大正十年	大正十年	大正十年	1	平	放	小
大正十年	大正十年	大正十年	大正十年	0	小	患	主

餘は推して知るべし



第十五 幹支學九星化氣學應用法

幹支、天源術、九星等は皆年齢を標準として循環數理を算當す何年は大輪何年は中輪何年には小輪と各々其厄難を區別するものなり左の如し  
自己の本命星を求むる例

本命 一白水星 三十三 三十四 三十五	本命 三碧木星 三十五 三十六 三十七	本命 五黄土星 三十九 四十 四十一	本命 二黑土星 三十四 三十五 三十六	本命 四綠木星 三十七 三十八 三十九	本命 六白金星 二十一 二十二 二十三
四十二歲	四十四歲	四十五歲	四十六歲	四十八歲	四十九歲
五十一歲	五十二歲	五十三歲	五十四歲	五十五歲	五十六歲
六十歲	六十一歲	六十二歲	六十三歲	六十四歲	六十五歲
六十九歲	七十歲	七十一歲	七十二歲	七十三歲	七十四歲
七十八歲	七十九歲	八十歲	八十一歲	八十二歲	八十三歲
八十七歲	八十八歲	八十九歲	九十歲	九十一歲	九十二歲
九十九歲	一百歲	一百零一歲	一百零二歲	一百零三歲	一百零四歲

本命 七赤金星 三十一 三十二 三十三	本命 九紫火星 三十三 三十四 三十五	本命 八白土星 三十二 三十三 三十四
三十九歲	四十一歲	四十二歲
四十八歲	四十九歲	五十歲
五十七歲	五十八歲	五十九歲
六十六歲	六十七歲	六十八歲
七十五歲	七十六歲	七十七歲
八十四歲	八十五歲	八十六歲
九十三歲	九十四歲	九十五歲
一百零二歲	一百零三歲	一百零四歲

歲破 七ツ目 則生れ年子なれば午に當る年を云ふ  
 歲破神は動土旅行殊に船行移轉を忌む  
 大金神 十目 則生れ年子なれば酉に當る年を云ふ  
 姫金神 四ツ目 則生れ年子なれば卯に當る年を云ふ  
 大金神姫金神此二神の崇りは實に甚敷金神七殺と稱して七人を殺すと若し其家に  
 七人の家内あらざれば隣家を合せて七人を殺すとか  
 月破 正月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月  
 申ノ方 酉ノ方 戌ノ方 亥ノ方 子ノ方 丑ノ方 寅ノ方 卯ノ方 辰ノ方 巳ノ方 午ノ方 未ノ方



右九星術は前序文の項へ記載する如く吾人の信ずる處に非ざるも易者間に流行するを以て概要を掲げたり

第十六 姓名文字讀下しの説明

姓名文字の讀下しとは姓名文字の字義を解釋して其意味を標準として是非善悪を審かにするものなり左に其例を掲ぐべし

一源頼政とは元來政事に頼ると云ふ政事家たる象なり換言せば源は元に通ずるを以て元は政事家たるも今は劍馬の勞に奔走する軍人なりと云ふ意味あり其人文武兼備の名將たるべし

一羽柴秀吉とは羽も木も秀で、吉なりと云ふ象にして草木の潤色を帶ぶる如く美麗繁茂なる意味を有せり其人大才子大智謀の大將軍たるべし

一徳川家康とは徳は流れて家は康しと云ふ象にして一見高名富貴繁昌

の意味を有せり其人大權威大智謀の大將軍となり子孫十五世の富貴繁昌して覇業を傳へたるは妙と云ふの外なし

一明智光秀とは明達にして俊英なる象にして一見博學多才大智謀の意味を有せり其人文武兼備の名將にして三日將軍の名を得たるも此姓名文字讀下し善良なるに依れるものなり

一平清盛とは一平に清く盛なる象にして換言せば一平に清美に盛榮なる豪大の意味を有せり其人大才子大智謀大權威を有せる大相國となり一族一家の大繁昌を極めたり

一日本武尊とは日本は武を尊むと云ふ象にして即ち武を重じ武に長せしむる日本國なりと云ふ意味なり其人大豪傑大剛毅の名將なりとす多くの艱難辛苦を経たるは武と云ふ文字は訓に「アシアト」と云ふ意味あるを以て貴人の身に生る、も東西の戦場を蹂躪したるものなり



とす

一 高師直とは高師と直戦すると云ふ象にして高師と云へば親兵ともなり又元と直戦すると云ふ意味を有すれば逆意或は朝敵の國賊となりたるは天理の當然其人足利尊氏の部將となり皇威に逆ふと云ふは妙なりと云ふべし

一 源爲朝とは元來朝廷の爲めにするといふ象にして換言せば國家の爲め事を成すといふ意あり其人勇武無雙の大豪傑となれり

一 安部宗任とは其部に安んじて宗業に任ずると云ふ象にして陸奥の豪族となりて出羽奥州の總長となりたるも名實違はざるものとす

一 加藤清正とは藤に藤を加へて綾を爲し清明に正しくしたる象にして一見美麗にして清明なる意味あり其人勇武無雙豊臣秀吉の武將なりとす若し平人にして此名を得ば大才子大智謀の人物とならざれば金

満家の人となるべし

一 中川清兵衛とは中川を差し挟みて兵備を設けたる象にして一見花麗の軍備を見るが如し其人勇武の軍師なりとす

一 楠正成とは楠の正しく繁茂したる象なり一見楠の正々として繁茂し豪莊なる意味を有せり其人威儀嚴正勇武大智謀の大將たるべし

一 西郷隆盛とは西の郷の隆んに盛かんると云ふ象にして換言せば西の國は富強繁昌なりと云ふ意なり其人參議大將大元帥となれり

一 榎本武揚とは榎本の武を以て名を揚ぐると云ふ象にして一見榎の木の前記にも述べし如く武と云ふ文字は訓義に「アシアト」とあるを以て本名は踏まれても

又起揚ると云ふ艱難を有せる意味あるものとす其人先づ國賊となり後に農商務大臣となる



一 河野廣中とは河原は廣大なる中央にあると云ふ象にして廣原の中央を大河の通じたるもの、如し宏大無邊の意味を有せり其人進歩黨の名士なりとす

一 北垣國道とは北奥の國境まで道路を通じたる象にして換言すれば北海道の僻地まで開明を全通したる意味を有せり其人北海道長官となり

一 尾崎行雄とは崎の末尾に至る迄雄美なると云ふ象にして一見崎の金部雄美周到なる意味を有せり其人文部大臣となる

一 伊東巳代治とは伊れより東方は巳代に治まると云ふ象にして一見東方の國は富强泰平であるといふ意味を有せりその人文部大臣となり

一 山本權兵衛とは山の麓に權威なる兵衛を設けたる象にして一見山下

の兵備嚴重なる意味を有せり其人海軍大臣となれり  
一 西郷從道とは西の郷は道に從ふと云ふ象にして一見西國は善道に從て天徳を守り榮花を極むると云ふ意味あり其人海軍大將内務大臣となれり

一 郡司ケエとは郡の司吏を警衛したる象なり一見貴重の吏を周到に警備保護したるもの、如し其婦人百萬圓以上の金満家となれり

一 田中ミキとは田中の水源なりと云ふ象にして耕作の豊凶は水源の良否に依り田園を潤さしむると云ふ意味なり其人百萬圓以上の金満家となれり

一 殿村イナとは殿の村は一位に居ると云ふ象にして一見殿の村は富貴繁昌にして他村の及ぶ處に非ずと云ふ意味なり其人五百萬圓以上の金満家なりとす

一 殿村イナとは殿の村は一位に居ると云ふ象にして一見殿の村は富貴繁昌にして他村の及ぶ處に非ずと云ふ意味なり其人五百萬圓以上の金満家なりとす







一石塚ハナとは墓所に納めたる花の如く其象甚た美麗なりと雖も根を去り水に浸したるもの、如く故に其人短命に非ざれば知覺不充分的婦人なりとす

一三上ハナとは前同様の意味なりと知るべし

一藤原梅吉とは藤原の中にかまれたる梅樹の如く其像甚た篤蔓に係り自由の禁を享けたる意味を有し其人癡疾篤疾にあらざれば精神上の活用を缺き不用の人物なりとす

一佐々ワナとは笹と木と共に繩を當て合ふの象にして一見草木を繩にて束ねたる意味を有す斯の如き讀下しは無形の智覺を失はざれば有形の不具癡疾となるか又は愚人短命の恐れあるものさす

一大石元とは大石の元にある象にして一見大石の下に有るもの、如く不具癡疾の人に非ざれば自由を失ふものなり又は早逝短命の恐れあ

る人物なりとす

一大石鐵彌とは大石に鐵銚を與ふること急なる象にして一見堅剛なる大石に鐵銚を與へ無理非道に打ちたるが如し其人氣違或は犯人となり短命の恐れあるものなりとす

一對馬藏吉とは一對の馬を土藏の中へ入れたる象なり一見自由を失はしめたる意味を有し其人智覺を失はざれば世上に出られぬ病根を有し盲目或は癩病、音啞又はキカズ等の病質を享くるものなりとす

一成田峰彌とは田を成墾するに山上の峰に作れるが如き象なり一見成田の見込を有せざるか又は早魃嵐風の爲め成熟する能はざる意味を有し到底出來得べからざる體質を有するものなり或は氣違又は愚夫となるべきものなり



第十七 參考

吾人は運命説を信ず又是を主唱す然れども吾人の信仰は決して自家の私言迷信に非ず古今東西の哲士偉人の著述に據り數年實驗に徴して能く適中する占術也最も吾人は易學及天源幹支術其他九星化氣等の諸術を應用し其與意要點を摘發し其明中する處を編集して素人婦女子迄も呑込み易き様簡單に解釋し以て人間一生中毎年毎月毎日自己の運命(自己に限らず誰にても)吉凶を測知する所謂獨り判斷の便法を知らしめんが爲に此一小冊を編輯する處なり併し方位の吉凶五黃殺とか本命敵殺とか姬金神とかの類は吾人の好む所にあらず亦必ずしも嫌ふべきの方位は無きものゝ如し其譯如何となれば公用主用戰地等は下命次第に辭する能はざるべし又私用に於ても自家より初め東に向つて出發するも南に折れ又西に向ひ北を指して數日空間を經過して目的地に達するものなれば決して方位の關係寡なしとす實に效用無きものと信ずれば茲には方位論は省略す

予が鑑定術は錯綜の如くなるも全く左に非ず其事柄に依り種々の法を

應用するは人として解し易からしめんが爲めなり其姓名を基礎とはするものゝ譬へは本年當月は如何なる境遇に接するかを見るに姓名術のみにては判り難し故に幹支や天源術に依り又其ものゝ場合に就ては易學を用ふる事あり其鑑定の模様逸々列記するに違あらず故に參考の爲め左に掲ぐるは予は三十六年十二月弘前滞在の際日露交渉切迫と成り將に戰端を開かんとするの兆候有るに因り其前途結果の如何を鑑定せしに其當時弘前新聞紙に掲載する處となりしもの左の如し  
日本てふ文字の運格數を閱するに日は四畫にして本は五畫なり合計即ち九なり抑も九なる數は極外に在りて天となす易に於ては九の數を以て乾となす天の意なり是れは至尊至高なる陽卦にして萬物の創始を意味す恰も金鳥紫雲を蹶破して東天に昇登し照明赫灼光耀勇姿に譬ふべし又乾は龍にして將に天に昇らんと欲して猛烈臂を張り爪牙を顯はし



眼瞳虚空を睥睨して未だ發動せず時機を待の象なり而も此卦の固有として初めは穩讓に出で悠悠敢て迫らず期の熟するに及んでや則ち猛蹶を極め嚴威を逞うし能く勝を全局の上に於て制收する佳瑞吉祥の運命を有す

次に天地乾坤の配置は日の四畫は天の乾●にして本の五は即ち地の坤○なり陰陽具備するを以て長壽富貴を永遠不朽に傳ふべきの善兆とす次に五氣配合は日は金性に本は水性に該當せられ此配合は醇良の適順を得所謂智仁勇の三高徳を兼備し堅忍不拔豪邁義俠の大氣風を保持す今の明治政府の運格を人に擬して判断を下すに其生れは戊辰の年にして此年正に三十六歳にて人に有ては難病の發すべき年なり而して又本命は六白金性なるを以て七赤と遇うては患難殺戮の化氣を惹き起すべき年なりとす果然日露交渉の難問題起る固より偶然に非ず而も其時局

荏苒空過するに至るは是れ即ち乾天の徳にして自然の向ふ所却て我れには僥倖高く勝算の基因なるは論を俟たざる也又三十七年即ち本年は甚た吉運の軌道に懸り諸利を獲得するの運命なり且つ九星化氣は主權的にして威權擴張し決斷履行して大に世の信用を厚からしむ然るに露西亞の皇帝陛下にも本年三十七歳辰の重厄に罹らせられ易學の自刑の厄とす是れに際會しては不和争鬪を見るの慘事有る概ね凶多く吉寡きの年なり夫れに同皇帝は御名ニコラスにして乾坤の配合は總黑象にして合計八畫なり此の八の數は艱難辛苦の身を圍繞して離れざるものゝ如し加ふるに劍難質を有して常に争鬪を起すの意を有し却つて敗破を招ぐの恐れあるものとす  
次に我が御軍旗の日章の十六筋の光線を添へたるは殊に最吉祥にして鬼神の頗る深淵なる意味を有するかと窺はる單純に我が姓名術に據り



ても實に十六數は上帝聖王の位に當り衆庶治の徳化に威服せしむるは  
 恰も草芥の風靡する如く至尊の數なり猶易に於ては十六を坤として所  
 謂母とす其徳たる森羅萬象に及ぶ博厚無疆の義あり事に臨み謙讓を先  
 きとす時機を待ち偉大の福利を收得し能く勝を一舉に奏する是れ等の  
 意味より日露折衝の難局は彼れより干戈を動かすべくも決して恐るゝ  
 處なし古語にも謀は人に在り事の成るは天運に在ると一には運二には策  
 略三には決死の勇兵此の三つのもの皆具備せられ居れば何ぞ勝ざるの  
 理有らんや故に大勝利と斷定す  
 果せる哉百戰百勝と成りぬ

露國極東大提督アレキシーフ身の上鑑

二〇一〇三〇三〇一〇一〇  
 アレキシーフ  
 土 火 木 金 土 水

右運格の綜合十一畫は頗る吉祥の數にして家運の最初に當る運命にし  
 て天賦の幸福を享け上位地に立つべき高尚の運命なり而して見れば元  
 匹夫卑賤より現高貴の立身ならん乎天地乾坤の配置を閱すれば一乾五  
 坤と醇良の適順を得未だ多く見ざる處にして長壽富貴の天徳を保てり  
 其素性としては有事に處して驚かず悠然自若として恰も猛虎の逸居す  
 る如く外貌は豐潤と優美なるも眼光凜として侵すべからざる嚴威を籠  
 め一轉すれば衆皆悚然と敬服するの態度を有し居らるべし  
 次に五氣配合は一見錯綜なる如くなるも五道具備せられ居れば完全無  
 缺高尚偉大の配合を得此性質としては智勇兼備謀略に富む頗る豪傑に  
 して經綸世を救ふの才有るものと猶且心中濶如として滿韓を蹂躪す  
 る位の氣風は顯れ居らん最も右配合中の金土有る爲め寡言に緘黙鬱蒼  
 たるも周到達せざるなく悉く掌握に存するが如くならん而かして難事



に臨んでは死を辭せず昂蹶鷹揚臨機應變の處置恰も大川の水の如く激  
 として低きには躍流疾走し或は亦肅として音無く機敏拔目無きの指揮  
 有らん然れども此性として慢心汪勃内閣を無視し天皇直隸の下に專行  
 の權を握り殷々として遠雷の如く名聲を海外に轟かし而かも大立もの  
 と世に風評せらるゝも當然ならん其資は大統領とか大將軍の位地に立  
 つべきも五氣配合中の木金と組みたるは凶惡にして交際上最も不和的  
 の性にして稍もすれば拒絶妨害の禍ひに陥落するの憂を有する配合に  
 して果然内閣側或は其部下等に軋轢葛藤絶ゆること無しといふ調子に  
 て末路慘憺たる困難に遭遇するならん  
 夫れに昨年は陛下と同一乾危に罹るを以て金渴の年なれば敢て金策も  
 出来間敷然れども本年は運勢財寶の善運にて一月は最も幸福を迎ふる  
 を以て多分の入金せらるゝならん

二月は患難殺戮不測の攻撃を享くべき運氣に接するなれば豈敢て狼狽  
 する程にあらざるも吃驚する事あるべし  
 三月は進歩發達の時運なるを以て位地を換へ進軍の事あらん  
 前書運數を以て先天易の卦を求むれば風水渙に該當す是れは順風に帆  
 を駕する如きの勢力十分の象にして意の如く遣り遂げ得ると云ふ良卦  
 なるを以て見れば海外旅順總督となりて跋扈し雷名を世上に博するも  
 天理の然からしむる處なるべきも裏卦には雷火豊なるを以て見れば横  
 合より災難の襲來して破事を來すの恐れ有れば好結果なかるべし  
 そこで將軍五氣の配合中水性の下に有るを以て見れば多淫の質を有し  
 女と來たら洒々落落天真爛熳として殆んど戀情に腦裡を掠奪せられ烟  
 然として禁じ難きの熱を起す事とならん嗚呼英雄色を好むとは空言に  
 あらず



果して大破敗を享け本國に呼戻され腐廢物とは成りぬ  
三十七年三月又々弘前へ漫遊の時予卑鑑を憚からず當八師團長閣下の  
武運を鑑定せし處弘前新聞紙へ掲ぐる處と成る故に茲に記す

姓 十二畫 五〇 七〇 八〇 四〇  
名 十二畫 立 見 尙 文  
姓名綜合二十四畫 火 木 金 水

本姓名の運格を標準に鑑定すれば左の如し

姓の十二畫及名の十二畫とも凶にして此運勢は幼壯年中を司るものにして破壊的にして物事不充分勝と云ふ象なり而して片親に早く離るか或は自己の郷里を去りて他の知らざる辛苦慘憺の境遇に接せられ實に臥薪嘗膽の範圍内かに蟄せられん乎然れども姓名綜合畫は二十八と成りて甚た善良に變遷せられ是れは一身一家を統率する處又中年後活動する運勢なるが天賦の幸福を享け上位を占め偉大の功を奏するの

運なり全體此運は家運の最初に當り換言せば家事經營上一變恰も日の西山に傾く如く衰頹に屬するを自己の智識厚德を以て構造恢復するのみならず高尚偉大の名を博する吉祥を有す故に晩年は大厦高堂に錦衣を纏ふの榮あるものとす

天地乾坤の配置は五〇七〇八〇四〇と組みたるは少しく逆なるを以て鑑むれば中年後志想一變の兆とす併し名の尙文と有は素と文學家ならん乎此名稱より鑑みれば頗る文彩に富み恰も子賈の巧文力有て鬼神を泣かしめ躍々として其形容紙上に浮み在る如くの感を赴さしむるの能力有るも中年より尙武の人とはなりしならん是れ前行の配合の然らしむる所なり

五氣配合は火木金水と組みて智仁勇の三徳を兼備し堅忍不拔の性質を保ち而も古人の陳平にも猶は髣髴たる智謀有らん其風彩は肅慎の態度



を顯示して慈愛に厚く慰懃にして而も凜冽と云ふ風にも非ざるも近接すれば何にと無く濛々たる冷氣面に迫り巉々として高峯を仰ぐ心地せらるべし之れ木金と組みたる嚴正なる權威を有する所以なり  
 本性名の連格敷を以て易卦を求むれば雷地豫の包卦地水師となりて雷地を出て奮ふの象にして師は地勢淵に望むの象所謂寡を以て衆を伏するの意味にして迅雷萬里を轟かし恐怖の念を起さしむる如く此卦の人は能く一言の下に衆を服従せしめ且論壇に登りては深淵なる適論も吐きて慷慨感佩せしむべし併し己れが意に逆ふ事有れば昂蹶として猛烈を發す夫こそ氷塊に向つて物云ふ心地すべし  
 本年の運命は兎角鬱滞に歸し去るべし就中當四月は目的外れ或は親しき人に離れ落膽殘念の思ひあらん五月は多忙を極め少し快活を感ずべし中旬頃は西南の方位に向つて出發する事有るべし然れども臨戰干戈

を交る事には非ざるべしと鑑定す  
 果して十一月末に出征の途に就きたり

明治三十八年一月三日日露戦争の運氣を予試占せし處  
 弘前新聞に掲載せられたるは左の如し

本年一月一日戦争の運命を占するに水風井の卦を得水は靜止の形容なるも干變萬化活動するものにして之れを打ては昂として額を過ごし或は吼叫激として趨走し何物か支ふる事を得ん之に因て鑑れば我が兵飽迄勇進貫徹して全勝を占むるは無論と斷定す尙水風井の卦を露國より見れば澤水困の卦にして困は窮なり亦鴉枯木に啼くの象にして甚た悲哀を意味せり又河の中に水無きの形とす百事大凶なり然れば露國必ず困窮に陥り内患外憂益々迫りて而かも鴉枯木に啼く如く皇帝或は孤を託する血涙の時機に逢ふべし彼我の運命一層を加へて細説すれば左の



如し

日本とは九畫にして夫れに三十八年を加ふれば綜合四十七と成り易の山水蒙にして蒙は昧なりと解き恰も雲霧の山溪其氣を吐て雲を起し險巖を覆藏する義にして彼をして迷はしむるか或は我が勇氣の中に包圍せられ挫折恐伏するの狀態なりとす或は童蒙の智識殷々發達して篤實忠信となる象なりとす又此卦は艮山の下に坎水有り坎泉の山溪より出て長流せず回還反覆して其行處を知らず併し初めは朦朧たれども後には日光著明赫灼として明白と成り世界萬國天下の人其徳を仰がざらん如斯運なるを以て彌々大勝利富國永遠不朽繁昌とならん  
次に「ロシヤ」云ふも「ニコラス」云ふも共に八畫にして夫れに卅八年の數を和ふれば四十六數と成りて易の坎爲水と成り此卦は一陽二陰の間に陥りて險むの義となる之れを稱して二人水に溺るの象寶を載せ船

を破るの卦とす此の卦を得る人は君臣和せずして二つに分れ齊ひ難き險み居る形とす又奸計逞しく盜賊に象どり坎は冬の時季病人なれば危篤とす然れば此後又々二艦隊二將軍は「マカローフ」の二の舞を踏ん乎右の裏卦は離爲火なり離は明かなる離るといふ又人に就て身を修むるとす諸大國に泣き附くか併し此卦性として美麗を粧ふの姿とす然れば虚勢を構ふべきか易學小筌にては此卦を以て雉網に罹り秋葉風飄の意として百般の難極に當りて大事大業を起すの志望到底行はれざるのみならず國家衰頽に屬し轉た悽愴の感を生ず内外人と無く批難誹謗等を享くるものとす猶本年四月雷雨水解の運軌道に係らせらるゝ此卦象は雷雨緩散恰も籠鳥故山に歸り魚網を逃れ去る姿なれば固守の兵敗散して後媾和と成るべきものと斷定す

バルナツク艦隊の運命を判断す



併せて媾和の時期如何

バルナツクといへば總畫數十四畫にして人なれば才力金力不十分なる凶數にして物事及ばぬといふ運なる故に何事に附け物力不足にて其意を果さず損失破敗遂に滅亡するに至るものとす天地乾坤の配置は四●  
 二●三〇三〇二●を組みて天理の良順を得て人なれば人に恵まれ人の意見に隨從して幸福長壽の配合なりとす  
 五氣配合は上に水有中に三火下に一木有るは火に屬して火勢猛烈を加へ威權勢力大なるも本畫十四は水澤節なれば水性に猶ほ及ぶ能はず壓迫せられて意の如く行ふを得ずして屈伏する姿なり  
 本年の運命は易の雷山小過に該當し此卦は本願より來り願は雷の山上に震ひ其聲迅烈萬里に響くと雖も聲有りて形無きものなり然れば露國も大國の名聲有るも其實虛弱なるべし且願は上下の二陽を以て内容の

四陰を覆ひ外には陽氣の意を示すも内空虚なる意なり而して今來りて雷山小過となれば上下顛倒齟齬の變動を來したる姿なり是れ則ち旅順陷落は豫想外落膽となる兆候ならん乎又此卦の全體に於ては上に震の長男といふ易の辭は動きて止まらず下は艮の小男といふは止まつて動かす彼我相背き違うて親まざるものとす尙上下の四陰二陽を包圍して動さず内陽の二陽微力なるも四陰を服さしめんと務む詰り不和艱難の卦象とす而して鑑れば彼の艦中不和爭論生じ居るか或は二將軍死守せんとするも四の弱將相前後して議論紛々なる場合あらん乎如何となれば裏卦は風澤中孚に成りて上に風ありて動搖し下には澤山自若として動かす其外容恰も鐵城の防備嚴重なるが如く内部は女隊或は奸邪の小人等守り居る姿なり而して外陽の動くを覗鏡するものゝ如し  
 二月は五十四數と成りて易の水山蹇と成りて蹇は難也足無にして動く



能はず進退爰に谷まり又坎水上に有りて必ず流れ下る其下るや岩石に支へられ裂れて七斷八截となりて至難なりとす然れば二月は該艦隊の内如斯き境遇に接する事あらん乎

五月は五十六數にして易の地山謙と成り是れ艮山の高きを以て却て坤の卑き地下に隠れ已れ屈して人に降る憂苦剝脱解散して其安きに就く姿なり故に同艦隊は此月に於て大敗を取りて我が小國に降るか尙露帝に於ても悲鳴を發し大國に泣き附て媾和を乞はん乎  
果して五月艦隊全滅せられ媾和の聲高張

露帝の遭難を判斷す

露帝遭難あらせられたる號外を得て鳥渡御運命を試みるに最も變災も生ずる譯です「ニコラス」と云へば八畫にして劍難質に在らせられ殊に乾坤の配置は總黑象にして此の配合の人は大艱難大辛苦の身を纏うて

離れざるものとす加ふるに本年は三十八歳に渡らせられ此の三十八と「ニコラス」の八畫と合せて四十六畫と成りて易の坎爲水の卦に該當す是れは二人水に溺れ寶を載せ船を破るの意にして坎は險陷なりと説き恰も小人は君子を難し君臣和せずして俱に險虚を以て實を欺き患難危窮の境界に陷るものとす猶其裏卦は離爲卦にして是れは雉網に罹り秋葉風に飄るの意且離は附なりと訓す其附く處皆盡る時は火も亦消盡る其性相離隔する姿なり又互卦は(互卦とは凡て内幕を占ふ所)山雷頤にして是れは壯士劍を執るの象にして則内亂の兆として上下の二陽四陰の小人内に入り中虚にして口を開きたる卦象なれば帝は天を仰ぎ神よ我を憐れまざるか情けなやと御嘆息も天運の然らしむる處人力の支ふ能はざる處なるべし

四月は易の水火既濟に該當し是れは芙蓉霜を戴くの象にして恰も日の



西山に傾斜し將に暗黒に陥らんと欲する如く人は散亂し患禍を來すべき卦象なり

五月は雷火豐と成りて是れは殘花雨を待ち俊雉雉を獲の象にして百方の艱難恰も葛葛身に纏うて動く能はず悲鳴を發する姿なれば或は此の月に於て大國に哀訴して媾和を求めんとする乎  
果して然り

亦媾和の終局期と其間に於ける模様の一占

六月は火山旅の卦に當り象に曰く日西山に傾き鳥を見て矢を失ふの意にして宛然旅客の故郷に歸らんとするも其旅費を失ひしが如し故に此の卦に當る人は憂苦慘憺として如何ともする能はず他日衰頹して救を請ふの運なるを以て現今外面は甚だ悠揚を裝ひ大言壯語し居れ共其の裏面は苦悶云ふに忍びざるもの有りて萬事埒の明ざる有様なるべし

七月は天地否の卦に當り象に曰く月雲霧の囊に藏れ寒鶯春を待つつの意否は塞也と訓じて乾坤の二氣閉塞して君臣和せず憂苦破敗ある象なれば世界の輿論を以て彼の意を遮斷さる可く猶且つ内憂も制止する能はずして所謂板挾みとなりて全く敗滅に歸すべき乎

八月の運は坤爲地の卦と成り象に曰く坤は順なり順うて吉なりとす坤は陰にして女とす陽の男に順ふ時は天理にして平和を得吉兆と有を以て無論御國の請求通りに順ふ可し

九月は地天泰の卦に當り象に曰く雁衡陽に至るの意也泰は通也貫徹するの意陰陽昇降して天地萬物を生育し交通の道を開通す亦た陰は物を消殺するの氣なれば小人に象り陽は物を生養する氣なれば君子の象なり今來りて地天泰と成りては小人野外に走り乾の君子内に在て其賢人位を正うし君臣交和國治家齊ひて其道行れ朝廷安泰を唱ふるの通義なり



りどす去れば構和整ひて終局を見るは恐らく此の月を越ゆるべし  
右の参考は皆吾人の鑑定致したる處にして其當時弘前新聞紙上に掲載  
せられたれば該新聞をれ讀の方は知らるべし

姓名判断術 終

明治三十八年八月二十四日印刷  
同 年八月二十八日發行  
大正三年七月十日再版  
同 年七月十五日發行

定價金五拾錢  
(不許複製)

著述者	鎌田晴山
發行者	札幌區南一條西四丁目●中久保旅館 阿部六左衛門
印刷者	札幌區南五條西五丁目二十番地 西村繁
印刷所	札幌區南一條西四丁目十七番地 西村活版所
發賣所	札幌區南一、西三 富貴堂



276  
550

仙臺名物

鯛味噌  
九重

入大場商店

狸小路西四丁目  
五番地



終

